

教 育 委 員 会 議 事 録

(令和5年度 教育委員会 第1回臨時会)

開会 令和5年7月20日(木) 午後2時00分 場所 西宮市役所6階教育委員会会議室	閉会 令和5年7月20日(木) 午後4時29分
--------------------------------------------------	----------------------------

出席委員	教育長 重松 司郎 委員 側垣 一也 委員 長岡 雅美 委員 藤原 唯人 委員 山本 幸夫	欠席委員		
会議に出席 した職員	職	氏 名	職	氏 名
	教育次長	藤井 和重	西宮高校教科用図書選 定委員会委員長	油井 光伸
	教育次長	漁 修生	西宮東高校教科用図書 選定委員会委員長	中村 みはる
	教育総括室長	薩美 征夫	西宮支援学校教科用図 書選定委員会委員長	原田 綾女
	参与(人事担当)	柏木 弘至	義務教育諸学校教科用 図書選定委員会委員長	河合 純孝
	学校支援部長	岡崎 州祐		
	学校教育部長	杉田 二郎		
	教育総務課長	伊藤 昭夫		
	教育総務課担当課長	原田 博司		
	学校教育課長	木田 重果		
署 名	教育長		委員	

付 議 案 件

<議 題>

- (審)議案第22号 令和6年度使用西宮市立高等学校及び西宮支援学校教科用図書採択の件
〔学校教育課〕
- (審)議案第23号 令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の件
〔学校教育課〕

以 上

傍 聴

12名

重松教育長	<p>ただいまより、令和5年度 第1回 教育委員会臨時会を開催します。 議事録署名委員には、藤原委員を指名します。よろしくお願ひします。 ここで、各委員に確認します。 本日は傍聴希望者が12名おられます。 会議は公開が原則であり、本日の案件は非公開とする理由がないため、すべて公開としてよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>異議なしと認めます。全て公開とします。 それでは、事件表の順に審議を進めていきたいと思ひます。 では、議案第22号「令和6年度使用西宮市立高等学校及び西宮支援学校教科用図書採択の件」を議題とします。 学校教育課長、お願ひします。</p>
学校教育課長	<p>初めに、教科書展示会について、報告をさせていただきます。 6月20日、火曜日から6月25日、日曜日までは西宮北口図書館にて、6月27日、火曜日から7月4日、火曜日までは総合教育センターにて、法定期間14日間、教科書展示会を開催いたしました。14日間で323名の来会がありました。アンケートの意見は126件ありました。事務局で集約したものを、参考資料として添付しております。 教科書については、数年前、他府県において教科書発行者が検定中の教科書を教員らに見せて謝礼を渡したり、自社の教科書を採択した高校に無償で教材を提供したりするなど、不適切な事案が発覚し、大きな問題となりました。 事務局としては、選定委員会や調査委員会にて具体的事例を挙げて注意喚起する事をはじめ、文部科学省による通知「教科書採択における公正確保の徹底等について」を、4月7日付で全ての市立学校に送付するとともに、校長会議にて各校での周知及び指導を依頼し、市内の全教職員に公正確保の徹底を図ってまいりました。 西宮高校、西宮東高校、西宮支援学校の教科書につきましては、各校で設置された選定委員会において教科書を選定いたしました。このあと、各選定委員会委員長より採択申請をいたします。 私からは以上です。</p>

<p>重松教育長</p>	<p>それでは、西宮高校選定委員会よりご説明をお願いします。 選定委員会委員長、お願いします。</p>
<p>西宮高校教科用 図書選定委員会 委員長</p>	<p>選定委員会を代表して、令和6年度に使用する教科用図書採択について申請します。 最初に、申請に至るまでの経緯について報告します。 5月10日の教育委員会会議において議決された、「令和6年度使用西宮市立学校教科用図書の採択に関する基本方針」に基づき選定委員会を設置し、選定作業を進めてまいりました。 まず、選定方針を申し上げますと、1. 本校の教育課程にてらし、指導上適切なものであること。2. 教材の分量、配分、設問等が学習に効果的であること。3. 本校生徒の学習能力に適応したものであること。と決めました。 この基準に則って、各教科を中心に専門的な見地から調査研究を進めました。 本校における教育活動を取り巻く状況は、高等学校の学習指導要領の改訂に伴い大きく変化いたしました。昨年度の入学生より年次進行で、令和6年度は全ての学年が新教育課程へ移行することを踏まえ、本校生徒の傾向をもとに慎重に調査研究を進めていました。 具体的には、本校に入学してまいります生徒の多くは、学習意欲が非常に高く、おかげさまをもちましてほとんどの生徒が進学を第一希望としております。 ほぼ全員が大学入学共通テストを受験する予定でもあります。 生徒、それと保護者ともに、学校に対する期待度も高く、先生方もそれに応えられるように日夜努力をしております。 教科書の選定につきましては、本部入学してくる基礎的な学力というのは、おかげさまで身につけておりますので、基本的な内容を応用したり、より深い学びへとつなげたりするための教材が充実した。教科書を中心に検討してまいりました。 その上で、各教科の代表、管理職、保護者、学識者から構成する選定委員会を6月14日に開催し、採択申請する教科書を決定いたしました。 その結果は、採択申請書の5から24ページに記載しております。 本校には、普通科とグローバル・サイエンス科がありますので、2種類の申請書を用意いたしました。 普通科についての申請書は、6から8ページになります。申請する教科書をすべて記載していますので、ご覧ください。</p>

一番右の【選定理由】の欄が空欄の教科書は、今年度使っているものと同じ教科書を申請しています。

【選定理由】の欄に文章表記のある教科書は、今年度使用しているものから教科書を変更したものになります。

変更した教科書だけを見やすく整理したものが、9から11ページの「選定理由報告書」となります。

なお、参考資料として、12から16ページに【前年度対比資料】も添付しております。

12ページをご覧ください。

右側が今年度使用している教科書となっております。左側が来年度（令和6年度）に使用したいと考えている教科書です。グレーの塗りつぶしになっているものは、今年度に当該生徒が既に使用している教科書を、進級しても引き続き使用する予定のもので、今回の採択の対象外です。

黒の塗りつぶしに白文字で記載されているものは、前年度から使用している教科書を変更したものです。白地に黒文字で記載されているものは、来年度も今年度と同じ教科書を選定しているものです。

それでは、9ページをご覧ください。

No. 12の英語コミュニケーションIについては、題材がありきたりのものではない点や、学習後にも生徒たちが対話しやすい題材が取り上げられています。また、パワーポイント資料なども大変充実しており授業展開がしやすい点等から、いづな書店の教科書を選定しました。

No. 16の論理国語については、複数の教材がテーマごとに編集されており、比較読みをすることが可能であったり、定番教材に加え、統計資料を含んだものも多く、近年の入試にも対応できたりするなど、各評論の内容が質量ともに充実しており、生徒の思考力・判断力を養うのに適していることなどから、大修館書店の教科書を選定しました。

No. 20の世界史探究につきましては、史料が豊富であり、本文の内容とうまくマッチしている点や、掲載順のバランスがよく、教材の並びや順番が最も適切である点、また、各章や節など、様々な場面での問いかけが本文とうまくリンクしている点などから、山川出版社の教科書を選定しました。

No. 34の地理探究については、図やグラフが豊富で適切に配置されており、現代社会の現状や課題について考察し、課題の解決策を構想する力を養うことができる点から、二宮書店の教科書を選定しました。

№. 35の政治・経済については、大判で、図や写真などの資料も適切に配置され、見やすいレイアウトになっていたり、本文の記述もよくまとまっていたりと、本校生徒の学習に適した内容となっている点や、「考察」「ふりかえり」「諸課題へのアプローチ」など、主体的な学習によってより理解を深めるための工夫も充実している点などから、第一学習社の教科書を選定しました。

№. 36の倫理については、難解な思想や思潮を適当な言葉で本文に順を追って分かりやすく展開されていたり、本文中に各思想の現代的意義などが数多く触れられ、生徒にとって示唆に富む記述となっていたりする点などから、清水書院の教科書を選定しました。

№. 37の数学Ⅲについては、中間値の定理の応用例が取り上げられていたり、微分方程式の初歩が物理との関連を踏まえて述べられていたりする点から、数研出版の教科書を選定いたしました。

№. 38の英語コミュニケーションⅢの桐原書店の教科書は、題材が興味深く生徒の知的好奇心をかきたてる内容であることや、語彙や文法、文構造の習得や内容理解だけでなく、リスニング力や表現力もつけられるように構成され、4技能の習得に適した教材である点などから、選定しました。

№. 39の論理表現Ⅲの新興出版社啓林館の教科書は、基礎的な文法事項を定着させつつ、リスニングやペアワーク、エッセイライティングなどの活動を通して4技能をバランスよく伸長させられる構成になっている点などから、選定しました。

続きまして、グローバル・サイエンス科の申請書及び参考資料は17から24ページとなります。

普通科の申請書と同様の形式で記載しています。

変更した教科書だけを見やすく整理したものが、20ページの「選定理由報告書」となります。

ここで、20ページ、21ページの№. 32以外の教科書については、普通科でも選定した教科書と同じものとなりますので、選定理由については説明を省略させていただきます。

報告は以上です。ご審議をよろしくお願いいたします。

重松教育長

ありがとうございます。続いて、西宮東高校選定委員会よりご説明願います。
中村選定委員会委員長、お願いします。

西宮東高校教科用図書選定委員会委員長	<p>選定委員会を代表して、令和6年度に使用する教科用図書採択について申請します。</p> <p>最初に、申請に至るまでの経緯について報告します。</p> <p>5月10日の教育委員会会議において議決された、「令和6年度使用西宮市立学校教科用図書採択に関する基本方針」に基づき選定委員会を設置し、選定作業を進めてまいりました。</p> <p>まず、選定方針を1. 指導要領の内容に従い、本校における生徒の進路、適性、能力等を十分考慮し、教育課程実施上最適である。2. 各教科ごとに教科書記述内容を研究し、さらに地域社会の要望など客観的資料を含め総合的見地から選定する。3. 各教科から推薦のあった教科書を、本校教科書選定委員会において再検討を加えて公正を期すると決めました。</p> <p>この基準にのっとり、各教科を中心に専門的な見地から調査研究を進めました。具体的には、本校に入学してくる生徒の基礎的な学力は年々高くなり、多くの生徒が難関大学の進学を希望しております。そこで高度な発展の事項が含まれていて、生徒の進路実現を叶えるレベルのものであること。また、基本的な内容を応用したり、より深い学びへとつなげたりするための教材が充実した教科書を中心に検討いたしました。</p> <p>その上で、各教科の代表、管理職、保護者、学識者から構成する選定委員会を6月23日に開催し、採択申請する教科書を決定いたしました。</p> <p>その結果は、採択申請書の25から33ページに記載しています。</p> <p>申請書の見方については、西宮高校と同様であります。</p> <p>なお、参考資料として、31から33ページに【前年度対比資料】も添付しております。</p> <p>26から28ページには、申請する教科書を全て記載しております。</p> <p>それでは、29ページをご覧ください。</p> <p>No. 16の論理表現Iについては、まず活動重視か文法項目重視かを検討いたしました。文法事項を押さえ、その後活動に向けて様々な内容をこなすという構成が、①課題でこなす②授業でこなす③各自活動でこなす、という教科の授業の来年度の方針に合致しているという点から、数研出版の教科書を選定いたしました。</p> <p>No. 17の情報Iについては、大学入学共通テストで使われる疑似言語とPython（パイソン）のコードが近いため、生徒が疑似言語を知らなくてもスムーズに試験に対応できることや、問われるレベルが大学の工学部などで行う1年</p>
--------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>から2年のプログラミング基礎の内容とほぼ同じ程度である点から、実教出版の教科書を選定いたしました。</p> <p>No. 33の論理表現Ⅱについては、1年次からの指導の一貫性という観点から、継続して同じ出版社の教科書を使用することとしている点や、補助教材が豊富で使い勝手がよく、様々な角度から生徒に活動や課題を課すことができ、デジタル教材も充実している点などから、いづな書店の教科書を選定しました。</p> <p>No. 35の地理探究については、図版の扱い方、及び事例学習の扱いが分かりやすく、使いやすく工夫されていることや、デジタルコンテンツや指導者用教材も体系的かつ網羅的な内容であり、担当者間での教材の共有が効果的・効率的に行うことができる点などから、帝国書院の教科書を選定しました。</p> <p>No. 36の政治・経済については、内容を十分に理解させられるだけの適当な知識が掲載されており、生徒の志望する進路を保障するだけの学力を定着させることが期待されることや、現代における政治・経済をめぐる諸課題について、多様な視点から問題を分析するためのページが設定されており、その内容も分かりやすくまとまっている点などから、東京書籍の教科書を選定いたしました。</p> <p>No. 37の論理表現Ⅲについては、同じ出版社の教科書をⅠ・Ⅱ・Ⅲと継続して使用することを原則としておりましたが、受験を考えた場合の授業の構成が、Writing中心であるものの、活動を中心としたものより、速読内容も含む、四技能の向上、強化を図る上で使用しやすいものとなっている点などから、数研出版の教科書を選定いたしました。</p> <p>No. 38の英語コミュニケーションⅢについては、1・2年次からの指導の一貫性という観点及び、補助教材が豊富で使い勝手がよく、様々な角度から生徒に活動や課題を課すことができ、デジタル教材も充実している点などから、数研出版の教科書を選定いたしました。</p> <p>報告は以上です。ご審議をよろしく願います。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。続いて、西宮支援学校選定委員会よりご説明をお願いいたします。</p> <p>原田選定委員会委員長、お願いします。</p>
西宮支援学校教科用図書選定委員会委員長	<p>選定委員会を代表して、令和6年度に使用する教科用図書採択について申請いたします。</p> <p>最初に、申請に至るまでの経緯について報告します。</p>

5月10日の教育委員会会議において議決された、「令和6年度使用西宮市立学校教科用図書採択に関する基本方針」に基づき選定委員会を設置し、選定作業を進めてまいりました。

まず、選定方針を1. 西宮市教育委員会の採択に関する基本方針に従い、最も適切な教科書を選ぶ。2. 小・中・高の一貫性や教材の系統性を十分に考慮して適切なものを選ぶ。3. 各教科の主たる教材として、目標達成に適したものを選ぶ。と決めました。

この基準にのっとり、各教科の教科書について、専門的な見地から調査研究を進めました。

特別支援学校の場合、特に、個々の生徒によって障害の状況等も様々ですので、一人ひとりの生徒について確認しながら、調査研究を進めました。

その上で、各教科、各学年の代表、管理職、保護者、学識者から構成する選定委員会を6月12日に開催し、採択申請する教科書を決定いたしました。

35ページ以降に小学部、中学部、高等部の順で記載しています。

37から40ページが小学部についての採択申請書となります。

小学部では、国語、算数、生活について一般図書を選んでいきます。

36ページにありますように、それ以外の教科では、小学校、義務教育学校前期課程で採択された検定教科書を使用いたします。

西宮支援学校では、授業形態として、学年の生徒全員で集団学習をする授業と、障害の状況等によってグループ等に分かれて、個別に学習する授業を併用しています。集団学習の場合でも、補助の教員が付きながら、個々の生徒の状況に応じた指導をしています。今回選定したこれら図書は、集団学習の形態の授業での使用を想定しています。

また、「生活」の教科書については、児童1人につき、小学部1年生では1冊、小学部2・3年では2冊まで、小学部4から6年では3冊まで採用することができます。しかしながら、来年度の児童についても全学年1冊とすることにいたしました。

なお、小学部1年については、来年度入学してくる児童の詳細な状況が分からないため、例年、検定教科書を採用しており、来年度も同様の方針であるため、一般図書としては1冊も報告にあげておりません。

次に、37ページをご覧ください。

No. 1の生活「知育えほんマークのずかん」については、子供たちにとって身近なマークを中心に掲載されており、分かりやすく構成されていることや、カラ

フルでマークに興味をもちやすく、マークを知ることによって安全、マナーなど社会に関心を持つことができる点などから、選定しました。

No. 3の算数「くまたんのはじめてシリーズおいしいおいしい1・2・3」については、子供たちが好きな食べ物と数字と一緒に出てくるため、自然と数字に興味をもてたり、1から10までの数唱や、挿絵の数と数字とマッチングするなど多様な使い方ができたりする点などから、選定しました。

No. 10の算数「ブルーナのアイディアブックミッフィーの1から10まで」については、コントラストが強くはっきりとした絵であるため、児童が注目しやすいことや、1から10までの数唱や、数を数えて数字とマッチングする活動など、様々な学習や活動をすることができる教材である点などから、選定しました。

No. 16の算数「とけいのえほん」については、とてもシンプルで分かりやすく午前の1時から始まり、夜の12時まで1時間ずつ1日の流れが描かれていて、時刻から広がる様々なイメージを感じ取ることができる点などから、選定しました。

また、39ページ、40ページに参考資料としてあげている図書は、兵庫県教育委員会の調査研究資料に掲載されていない図書を記載しております。

次に、41ページをご覧ください。

中学部についての採択申請書となります。

中学部では、国語、社会、理科について一般図書を選んでおります。各学年全員が同じ図書を選んでいきます。数学については、文部科学省による著作本、いわゆる星本を使用します。

次に、42ページをご覧ください。

中学部の一般図書については、内容等を協議した結果、昨年度から変更になるものはありませんでした。

41ページにありますように、それ以外の教科では、中学校、義務教育学校後期課程で採択された検定教科書を使用する予定です。

43ページをご覧ください。

高等部についての採択申請書となります。

43ページ、44ページは、今回申請している検定教科書についての申請となります。

申請する教科書に変更はありません。

45ページをご覧ください。

45ページには、一般図書について選定したものを記載しています。

重松教育長	<p>No. 2の国語「くらしに役立つ国語」を今年度新たに選定いたしました。筆談ができる生徒にとって有用な慣用句や敬語など、文の表現力を高めるための項目や自己紹介のポイントなどが充実していることや、手紙の書き方や電話でのメモの取り方、調べて発表するための手順など、社会生活を送る上で知っておくと便利な内容が分かりやすく取り上げられており、興味をもって学べると思われる点などから選定いたしました。</p> <p>報告は以上です。ご審議をよろしく申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>説明が終わりましたので、これより質疑討論に入ります。</p> <p>本件にご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>なければ、採決に入ります。</p> <p>議案第22号については、原案のとおり可決してよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>ご異議なしと認めます。よって本案は可決されました。</p> <p>続きまして、議案第23号「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の件」を議題とします。</p> <p>それでは、選定委員会より説明をお願いいたします。</p> <p>河合選定委員会委員長、お願いします。</p>
義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長	<p>はじめに、経過報告をいたします。</p> <p>5月10日の教育委員会定例会において、「令和6年度使用西宮市立学校教科用図書の採択に関する基本方針」を決定いただいたあと、5月24日に第1回選定委員会を開催いたしました。</p> <p>その中で、「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書選定委員会報告方針」を決定するとともに、本年度は、小学校教科用図書の採択替えに当たるため、調査員を置いて、調査研究を行うことを確認いたしました。</p> <p>また、特別支援学級用の一般図書についても調査員会を設置し、調査研究を行うことを確認いたしました。</p> <p>調査員につきましては、「義務教育諸学校教科用図書選定委員会運営要領」に従</p>

<p>重松教育長</p>	<p>い、国語科と算数科は13名、社会科と理科は7名、生活科、音楽科、図画工作科、家庭科、保健、外国語（英語）、特別の教科道徳は5名、特別支援学級用の一般図書の調査員5名で構成いたしました。</p> <p>なお、調査員については、各学校から校長が推薦し、選定委員会から委嘱いたしました。</p> <p>5月26日に、第1回調査員会を開催し、採択方針と調査研究についての説明、教科書採択に係る公正確保等について確認し、調査研究を始めました。</p> <p>その後、調査員による調査研究を行い、6月30日に第2回選定委員会を、7月5日に第3回選定委員会を開催いたしました。</p> <p>各調査員代表から調査結果の報告及び聴取を行い、報告書の加筆修正等を行い、本日の報告書を作成いたしました。</p> <p>なお、公正確保につきまして、調査研究が静謐な環境の中で、公正、公平な立場で行われたことを、合わせてご報告いたします。</p> <p>次に、本日の報告書の概要について、ご報告いたします。</p> <p>報告書には、「小学校、義務教育学校前期課程教科用図書の調査報告」、「特別支援学級用一般図書の調査報告」の2種類の調査報告がございます。</p> <p>「小学校、義務教育学校前期課程教科用図書の調査報告」につきましては、報告書の3から21ページに記載しています。</p> <p>報告方針の中で設定した、特別の教科道徳以外の教科については11観点について、特別の教科道徳については12観点について、発行者ごとに、特徴を文章表記しています。</p> <p>観点の一つである、カラーユニバーサルデザインにつきましては、第1回調査員会の中で、色弱の方の見え方を模擬体験するメガネを会場に用意し、調査の視点として捉えてもらうようにいたしました。</p> <p>調査結果といたしましては、報告書にも記載しておりますが、各教科、どの発行者でも配慮がされておりました。教科書の裏表紙や教科書編集趣意書にカラーユニバーサルデザインへの配慮について全ての発行者で記載がありました。</p> <p>「特別支援学級用一般図書の調査報告」につきましては、報告書の23から30ページに記載しています。後ほど、報告させていただきます。</p> <p>以上です。ご審議をよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。それでは、ここで議案第23号の議事の進行について確認させていただきます。</p>
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>まず、採択の方法としては各教科において出版社が6社以上の場合については2社。5社以下の場合には1社を推薦いただき、その教科書を選定した理由を述べていただきたいと思います。</p> <p>次にそれを基に採択となりますが、教育委員は全部で5名いますので、推薦された教科書が5分の3以上であれば、それを採択します。ただし6社以上から選定した場合は2社選定しますので、5分の3が2社、もしくは3社となった場合は、その教科書について教育委員全員で協議し、決定することとします。あわせて5分の4、及び5分の5が2社になった場合も同様とします。また、5社以下を採択する場合において、5分の3に達せず、5分の2が1社の場合には、その1社を採択します。さらには、5分の2が2社選定された場合は、教育委員全員で協議し、決定することとします。あわせて選定された教科書が全て1社となった場合も、教育委員全員で協議し、決定することとします。</p> <p>また採択の順につきましては、小学校、義務教育学校前期課程教科用図書採択につきましては、教科ごとに審議を行い、採択する教科書を議決していくこととします。以上の2点について、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、教科ごとに議事を進行していきます。</p> <p>まず、国語からですが、順番は最初に山本委員から順番にいきますが、次の教科書からは今度、藤原委員というように一つずつずらしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>では、国語の教科用図書採択について審議を始めます。</p> <p>選定委員会の説明をお願いいたします。</p> <p>河合選定委員会委員長、よろしくお願いします。</p>
義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長	<p>国語の報告をさせていただきます。</p> <p>調査研究の中では、各発行者の資質・能力の育成に向けた工夫や主体的・対話的で深い学びについての工夫などを中心に協議いたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、単元の導入において、育成する資質・能力を「ことばの力」として示されており、自らの課題に見通しをもって学習することができるよう工夫がありました。図・表を用いて、思考を整理するために「デジタルノート」が用意され、情報活用能力の育成に期待できます。</p> <p>教育出版は、系統立てられた学習活動の積み重ねにより、見通しをもった学びとすることで、主体性かつ考える力の育成を図る構成となっています。「まなびリンク」には、デジタルコンテンツを分類して活用しやすくする工夫がありました。</p>

<p>重松教育長</p>	<p>光村図書は、単元のはじめには、「問いをもと」が設定され、学びを自分事として捉え、学習と向き合うよう工夫がありました。デジタルコンテンツには、作者のインタビューや映像があり、学びに生かす工夫がありました。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>説明は終わりましたが、これより質疑に入ります。</p> <p>国語についてご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>なければ、各委員からの採択の結果報告をお願いしたいと思います。</p> <p>では、山本委員からよろしくお願いします。</p>
<p>山本教育委員</p>	<p>結論から言いますと、光村図書です。</p> <p>先ほど説明にもありましたが、光村や東書の特に巻頭は国語の学び方ということで、主体的に学べるような工夫がされているということが顕著だったと思っています。</p> <p>教育出版については、見通しをもって学ぶという新しい手法なども取り込みながら面白い教材を取り上げているなどというのは感じました。</p> <p>デジタルコンテンツについては、どこもかなり充実してきたなどというのは感じます。ただ、国語に限りませんが、多過ぎるというのもどうかというようなことも思いました。</p> <p>東書さんの方は、スペースが若干少なくて、詰まっている感じがして、特に1年生の教科書でそういう感じがしました。その辺り何かスペースの生かし方というようなものがもう少しあってもいいというふうに思いました。</p> <p>光村さんの大きな理由をあと一つあげるとすれば、本市は読書活動など、図書館教育ということにかなり力を入れています。そういう内容を鑑みたときに2、3、4、5、6とかなり充実しているなど。本の紹介のほかにも学校図書館の利用の仕方や、公共図書館などの活用ということも紹介されているというようなこともあって、選びました。</p> <p>以上です。</p>
<p>重松教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に藤原委員、お願いします。</p>

藤原教育委員	<p>私も結論を申し上げますと光村図書がふさわしいと考えました。</p> <p>新学習指導要領の主体的、対話的、深い学びという点がありますが、この中で一つ求められる能力、これは子供たちだけじゃなくて私達大人もなんですけれども、問いを立てるということが、これからの時代は求められるということが盛んに言われております。そうした際に、問いを立てるというので、国語教育っていうのは、それに最もふさわしかろうというところがあります。そうしたときに光村図書さんは、問いを持つという導入の仕方があって、併せてその目標というのを併記されている点が特徴的に感じました。</p> <p>あとの2社も同様の記述はあるのですが、問いを立てるというよりは、課題を与えるというふうな感じになったようです。大人から子供に対して何らかの課題を与えるというふうな形になっているので、問いを立てるという趣旨に合致するものとしては、光村さんかなというふうに感じました。</p> <p>以上になります。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に長岡委員、お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>私も光村図書さんです。その理由は、藤原委員からもありましたけれども、言語活動を中核に据えながら、問いを立てていく。しかもそれが自ら、児童自ら問いを立てていくということが特徴的だったというふうに思います。その問いを解決しながら学習に向かうように、内容が構成されていたというところが大きな理由です。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に側垣委員、お願いします。</p>
側垣教育委員	<p>私も結論から言いますと光村さんを選びました。ほかの委員の皆さんと同じような意見なのですが、やはり教科書の構成全体が、自分で考える力を育むという、主体的に学び合う姿というそういうものが非常に大切にされているなということ。やはり全体的な紙面の見た目がすっきりしているというか、学びやすいようなデザインになっているなというところですか。それが理由です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p>

	<p>では、私の意見を申し上げます。私も光村です。単元の最後にその単元で習得すべき目標が示されており、それを元に振り返り、そのことで知ること、考えること、そして主体的に学ぶことの三つの柱を意識したものとなっています。</p> <p>さらに、言葉を大切にするために、想像を広げたり、他者との関わりの中で語彙が高められるように、工夫された教材が多く設定されているというのが特徴です。主体的、対話的、深い学びに一番即した教科書ではないかと思っています。私からは以上です。</p> <p>以上の結果から国語については、全員が光村採択ということですので、光村でよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>では、異議なしと認めます。</p> <p>よって、光村に決定させていただきます。</p> <p>次に書写の図書採択について、審議を始めます。</p> <p>選定委員会の説明をお願いいたします。</p> <p>河合選定委員会委員長、お願いします。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>書写の報告をさせていただきます。</p> <p>調査研究の中では、写真、イラスト、QRコードなどを使ったユニバーサルデザインや学習を見通したり、振り返ったりするための、工夫を中心に協議いたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は聞き手の違いに関わらず、学習に取り組むことができるよう、教材文字と書き込み欄を上下に配置する配慮がありました。</p> <p>また、書写の学びと単元のつながりが一目でわかるよう、表紙裏のインデックスに工夫がありました。</p> <p>教育出版は、左利きの鉛筆の持ち方や用具の置き方を掲載する工夫がありました。</p> <p>また、キャラクターを用いて、目次の下に、書写の学びを生活に生かすことができるよう工夫がありました。</p> <p>光村図書は、デジタルコンテンツに右手で書く人用と、左手で書く人用が用意され、主たる学習要素は、紙面上を大きく丁寧に、それに付随する要素は、小さく簡潔に示す工夫がありました。また、書写ブックとして、書写の学びを他教科の学習場面や日常生活に生かすことができるよう工夫がありました。</p>

重松教育長	以上でございます。 ありがとうございます。 それでは、書写につきまして、各委員から質疑はありますか。 ございませんか。 なければ各委員からの採択の結果を報告願います。 藤原委員からお願いします。
藤原教育委員	はい。私からは、結論から申し上げますと東京書籍がふさわしいかなと感じました。書写の教科書一つは、文字の書き方というところと、あとは例の主体的、対話的、深い学びという観点から考えますと、自分の考えたことをどういうふうに表示するのか。特にそのポスターなどの記載の仕方いうところが、書写の時間での課題になるのかなという感じだと思います。そうしたときに、文字の書き方という点で感じますと、東京書籍さんが運筆の説明の仕方などがわかりやすいことと、あとポスターの作り方などについて、駄目な例を挙げつつ、分かりやすくどうすれば分かりやすく、伝わりやすくなるかっていうところを説明している点が非常に有意義だというふうに考えました。以上です。
重松教育長	ありがとうございます。 次に長岡委員、お願いします。
長岡教育委員	私も東京書籍さんです。その理由は、私は毛筆の学習が始まる部分を見ていったのですけれども、この毛筆が始まるこの導入の授業っていうのは、毛筆の用具の名称とか、それから用途に関することと、それから毛筆を使って書くことの二つの内容を学習するのだと思うのですけれども、このあたりが、ほかの出版社さんも、もちろんきちんとされているのですが、特に毛筆の学習に関心を高めて意欲的に取り組んでいこうというようなところが、より明確になっていたかなという点です。
重松教育長	ありがとうございます。 次に側垣委員、お願いします。
側垣教育委員	私はですね、東京書籍と光村といずれか迷いまして、結果的に言いますと東京書

	<p>籍を選びました。その理由は、今、長岡委員がおっしゃったように、導入の部分が非常に分かりやすいということと、その書写に対する興味を持ちやすいような導入をされているなということと、それから写真で筆致のモデルが出てくるのですが、朱を使って力を入れるところと、抜くところとか、どういうふうに抜けているのかというところが分かりやすく示されていたのですね。言葉ではなかなか表せないのですが、そういうモデルが示されているということが、非常に特徴的だなと思ひまして、それで東京書籍を選びました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に山本委員、お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論は東京書籍です。悩みましたけれども結論は東京書籍です。左手で書く人への配慮というのは、どの教科書もされています。書き方は違いますけども、手本を見開きで縦で書くとか、手本を右ページ、左ページにするとか、様々な配慮、工夫は、それぞれの教科書にされているなと思ひました。</p> <p>低学年などは特に、書くときの擬態語ってすごく大切だという気がするのですが、そういうこともきちんとどの教科書にもされています。実際、現実の問題としてこういう書写の指導というのは、なかなか学校現場の先生も、難しいというか、苦手という人も正直いると思ひます。そうすると指導もしやすい、それから子供が自分でも書きやすいということで、運筆動画が、どれだけ充実しているのかということを考えたときに、東書さんが一番というふうに思ひました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。では、私の意見ですが、私も東書です。</p> <p>各時間における目標が具体的に示されており、さらに習得すべき知識や、技能がわかりやすく説明されています。また見つけよう、確かめよう、生かそう、振り返ろうという学習の過程が一貫しており、見通しを持って学習に臨むことができることが特徴です。併せて、硬筆と毛筆のつながりが、うまく生かされているのではないかと思ひています。以上のことから私は、東書を推薦させていただきました。</p> <p>このように委員全員が東書ですので、最終的に東書を採用するということがよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>

<p>重松教育長</p>	<p>異議なしと認めます。よって、東書と決定させていただきます。 次に、社会科の教科用図書採択についての審議を始めます。 選定委員会の説明をお願いいたします。 河合選定委員会委員長、お願いします。</p>
<p>義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長</p>	<p>社会科の報告をさせていただきます。 調査研究の中では、各発行者の資質・能力の育成に向けた工夫や主体的・対話的で深い学びについての工夫などを中心に協議いたしました。 各発行者の特徴ですが、東京書籍は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階が示されていました。「まとめる」では、社会的な見方・考え方とともに「まなびのポイント」で言語活動が例示されており、政治・国際編では、問題解決的な学習を進められるよう、「いかす」では、世界の課題の解決に向け、SDGsの視点で考える場面設定などの工夫により発展的な学習へとつなげています。 教育出版は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の流れを各見開きの左ページにインデックスを付け、分かりやすく示しています。社会的な見方・考え方がキャラクターのふきだしに太字で示され、「まとめる」では、思考ツールとともに表現活動や言語活動を、「つなげる」では、SDGsや社会とつながる視点で考える発展的な学習へとつなげています。 日本文教出版は、「問題を発見する力を身につけよう」「問題を追求・解決する力を身につけよう」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」の学習過程を脚注インデックスとして付け、分かりやすく示しています。「問題を追求・解決する力を身につけよう」では、社会的な見方・考え方が三つのキャラクターで示され、ふきだしには言語活動を生み出す問いの工夫があり、「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」では、現代的な諸課題について、SDGsの視点から考える場面設定やSDGsシールなどの工夫がありました。 以上でございます。</p>
<p>重松教育長</p>	<p>ありがとうございます。 説明が終わりました。 これより質疑討論に入りますが、社会について何かご意見ご質問ありませんか。 よろしいですか。</p>

長岡教育委員	<p>それでは長岡委員からお願いします。</p> <p>私は日本文教さんです。理由はですね、子供たちの素朴な疑問を出し合って、共有を意識させている点です。それぞれのその問いを追求することから問題を解決して、自分の考えをまとめていくということが、系統的に組み込まれているというふうに思いました。それから先ほどの御説明にもあったのですが、社会意識の見方にも工夫があって、多様な意見とか考え方を理解するというようなことが積極的に促されるような、そういった流れができていているというふうに思います。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>次に側垣委員、お願いします。</p>
側垣教育委員	<p>私も日本文教出版を選びました。やはり先ほどの説明にもありましたけれども、自分自身で考えていく力を伸ばす、というところに工夫された組み立て方だったなというふうに思いますし、例えばSDGsの課題についても、その先をどうするかと自分自身で考える力、それを育てていくというふうな他に広げるっていうか、学習をしっかり広げることが、できるようなそういう組み立て方だったと思います。それから、兵庫県出身の学者のことであったり、西宮関連の記載があったりして、やはり西宮の子供が学ぶには、やはりこの教科書がいいかなというふうに思いました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>次に山本委員、お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論から言うと、日本文教出版です。どの教科書も問題解決的な学習でということで紹介されているのですが、日文さんが一番、問題を掘り下げようとしている。つまり深い学びということにつながるというように思いました。日文は問題から追求で、さらに考えたい問題を一つ作るわけですね。そして新たな疑問が出てきて、さらに追求という、このさらにとという考え方が非常に明確に出ているということが、いいと思いました。</p> <p>社会科の見方、考え方については3社とも出ています。ただそれぞれ書きぶりが違います。日文さんは空間、時間、関係と、見方だけを三つ端的に書いています。</p>

重松教育長	<p>東書さんは、考え方もひっくるめて、四つ書いている。教育出版さんは六つ書いている。私は、シンプルな日文さんの三つの考え方に賛成しました。</p> <p>それから最後、地域の教材のことが、先ほど言われましたけど、同感です。兵庫の地域教材が取り上げられています。姫路だとか、但馬、それから西宮もさっきありましたけども、そういうものが取り上げられている。これは大きな理由になりました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>次に藤原委員、お願いします。</p>
藤原教育委員	<p>はい。私も結論を申し上げますと日本文教出版がふさわしいと考えました。</p> <p>もう皆さんご指摘のところですけども、問いの立て方を、問いを立てた上でそれを議論して追及していく。さらに興味がある子は掘り下げていくという流れが、一番明確にされていたのではないかなと感じます。</p> <p>あとの2社さんも、同様の流れにはなっているのですが、やはり入り方が課題から入っているというふうに感じました。</p> <p>1点、ただ日本文教出版でちょっと残念だなと思った点は、4年前の、前の教科書のとき6年生の憲法の説明ところで、唯一立憲主義について説明がありました。すなわち憲法というのは、単にその国の基本法ではなくて、もともと国の権力を抑制するためのものであると。つまり名宛て人が国民ではなくて、国になっているということ、小学校の教科書ながらちゃんと書いてくださっていたのは日本文教出版だけだったんです4年前は。それが大きな加点理由順位だったのですが、今回ちょっとそれが見当たらなかったのが非常に残念に思いました。</p> <p>はい。ただ、そういう問いから入るといふ点から考えて、日本文教出版がふさわしいと感じます。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。最後に私からですが、私も日文です。課題を発見し、それを掘り下げてということと、問題解決系の学習過程が分かりやすく示されています。また、学びのあり方として、子供たちの多様で素朴な疑問から学習課題をつかみ、焦点化された課題を追求することで考えを深め、解決していくために、図を用いて分かりやすく提示するなどの工夫があったのではないかと考えています。また先ほどあったように、兵庫県のことについても触れられていますので、そういう意味では日文が良いと思っています。</p>

重松教育長	<p>以上のとおり、全員が日文ですので日文ということによろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>では、異議なしと認めます。</p> <p>次に地図の教科用図書の採択について審議を始めます。</p> <p>選定委員会の説明をお願いいたします。</p> <p>河合選定委員会委員長お願いします。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>地図の報告をさせていただきます。</p> <p>調査研究では、発行者が2社ですので、観点ごとの特徴に加えて、2社比較したときに、どのような違いがあるか、ということを中心に協議いたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、落ち着いた配色で、大きな写真と文字が見やすい工夫がありました。世界の「ホップ↑ステップ↑ジャンプ↑」では、進んで地図学習に取り組めるよう作業やクイズがあり、動画として「SDGs わたしたちがつくる未来」のサイトが設けられています。</p> <p>帝国書院は、鮮明な配色で、地形と人々のくらしが読み取りやすい工夫がありました。「地図マスターの道」では、進んで地図学習に取り組めるよう作業やクイズがあり、「世界のSDGs」では、その取り組みが紙面に掲載されています。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>説明が終わりました。</p> <p>これより質疑・討論に入ります。</p> <p>地図について、ご意見・ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、それぞれの委員の意見を聞いていきたいと思えます。</p> <p>側垣委員お願いします。</p>
側垣教育委員	<p>私は帝国書院を選びました。その理由は、全体的に非常に見やすい。参考にしやすいということ。それから地図が、前の選考委員会のときに少し意見が出ていたと思うのですが、全体的に地図が途切れない。端境ができないそういう工夫が、縮尺をそういうふうな形の利用として掲載しているということ。それから、この</p>

重松教育長	<p>報告書にも書いてあるのですが、日本における自然災害等ですね、そういう対応であったり、それから自分たちでハザードマップを作ってみようみたいな導入があったり、自分自身がそれに積極的に考えられるような、工夫がされているということ。それから手話で話す都道府県コーナーっていうのがありまして、インクルーシブを意識した、そういうふうな書面構成になっているというふうなことを感じました。</p> <p>それが私の選考の理由です。</p>
	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に山本委員、お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論から言うと帝国書院です。一言でいうと見やすいということが一つ。見開きのページに東京書籍さんは、全世界の国名を書いています、かえって見にくい。それはもう後にまわして構わないかなと。3年生が使うということを考えれば、帝国さんのように主な国名だけという見開きの方がいいと思いました。</p> <p>それからデジタルコンテンツ、どちらも充実しているのですが、帝国書院さんの方は地図学習の基礎になることがたくさん出ている。「いろいろな日本地図」とか、「いろいろな世界地図」、それから「地球儀の使い方」など。世界地図でも、オーストラリアなどで使うというか、売られている「逆さ世界地図」などもちゃんと登場している。つまりいろいろな視点から見ることの大切さを、さりげなく表しているところも、さすがだなと思いました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に藤原委員、お願いします。</p>
藤原教育委員	<p>私は、結論としては帝国書院が楽しいとを考えます。</p> <p>まず子供たち、地図を手にして、自分が住んでる西宮を探すっていうことをする子は多いと思います。そうしたときに、2社とも近畿地方の地図は当然あります。その次に近畿地方中心部の地図があります。そこで残念なことに2社とも西宮がちょうどページの境目になっているのです。ページのこの境目の見にくいところに西宮がきています。ここは2社ともそうで非常に残念なのですが、そこからさらに進んで、帝国さんの地図は、さらに京阪神拡大図というものがあります。そこで西宮のことを捉えることができるし、例えば神戸であったり大阪であるとか、</p>

	<p>おそらく日常に足を伸ばすところとの距離感が非常に分かりやすくなっています。さらに、大阪市中心部という地図があってそこに西宮市がちょっとだけかかっているというふうなところありますので、やはり西宮市として採用するものとしては、西宮が尊重されている点において優位に立つのかなというふうに考えました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>次に長岡委員、お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>はい、私も帝国書院さんです。その理由は、もう一番は見やすさです。それからもう一点は自然災害のところなのですが、写真でほかもそうなのですが、その自然災害が怖い、恐ろしいっていうことは伝えているのですけれども、さらにその怖さ恐ろしさを伝えた上で、今度は自然災害から身を守るもう一つ、さらに踏み込んだマップを作るといようなところがよかったと思っています。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。私も帝国書院です。地図帳を活用して、日本と世界との幅広い知識を自分のものとして活用できるよう、学びの基礎基本を親しみながら身につけることができるように編集されているという特徴があるので、学校の授業の中で活用しやすいと思い、帝国書院にしました。</p> <p>委員の全員が帝国書院ですので、帝国書院に決めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>異議なしと認めます。</p> <p>次に、算数に移りたいと思います。</p> <p>算数の報告を河合選定委員会委員長にお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>算数の報告をさせていただきます。</p> <p>調査研究の中では、「数学的な見方・考え方」をもとに、資質・能力の育成に向け、どのように工夫されているかについて、協議をしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、単元の前半は吹き出しや補助発問などを設</p>

<p>重松教育長</p>	<p>定し、中盤以降は吹き出しや補助発問等を段階的に減少させるよう単元が構成されていました。未知の課題に対し、吹き出し「同じように考えると」で既習を生かし、考えを促したり、まとめや思考の広がりをもつ場面では、吹き出し「それなら」「それなら次は」で、学びの連続性や理解の深化を図ったりする問題解決的な学習に向けた工夫がありました。</p> <p>大日本図書は、問題解決の流れが縦向きのインデックスで示されており、単元の流れとして、右ページ始まりとする構成となっていました。単元末の問題に、問題「見方・考え方をたしかめよう」を設定するとともに、単元の「発見！考え方」や「ひらめきアイテム」に関連付け、同様の考え方で問題と向かい合えるよう工夫がありました。</p> <p>学校図書は、日常生活の場面を導入として設定されており、縦向きに活動場面の記号を設け、問題解決の流れを示しながら単元が構成されていました。キャラクター「考え方モンスター」のそれぞれに数学的な見方・考え方の役割が設定されており、「考え方モンスター」の配置により、問題解決に向けて自身の気づきを促す工夫が見えました。</p> <p>教育出版は、問題発見力・問題解決力・問題追求力の三つの力の育成で単元が構成されていました。コーナー「つながるミカタ」では、キャラクター同志の会話のやりとりから数学的な見方・考え方について触れながら、問題に配置された記号「?」「!」により自身の気づきをもとにして、問題解決を図る工夫がありました。</p> <p>啓林館は、じゅんぴ「とびらページ」では、日常の事象や既習事項とのつながりから単元がスタートするよう構成されていました。キャラクターの吹き出しのセリフにマーカーを付して数学的な見方・考え方が強調されており、学習のポイントが可視化されているのが特徴です。</p> <p>日本文教出版は、単元導入前の「次の学習のために」では、既習事項を確かめられるようにしており、補充的内容の「じっくりチェック」と、応用的・発展的内容の「ぐっとチャレンジ」、「もっとジャンプ」に分かれた「算数マイトライ」が用意され、学力の確かな定着・習熟を図るよう単元が構成されていました。</p> <p>「見方・考え方」がページに配置されており、問題解決を促していました。</p> <p>以上でございます。</p> <p>算数についての説明は終わりました。</p> <p>これにご意見ご質問ありませんか。</p>
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

山本教育委員	<p>よろしいですか。</p> <p>では、なければ各委員からの採決結果をお願いしたいと思います。</p> <p>でははじめに山本委員お願いします。</p> <p>2社ということで、啓林館と大日本図書です。</p> <p>各社とも単元の考え方、展開については、問題解決的な学習を展開されています。</p> <p>その中で啓林館さんが一番スムーズというか、スパイラルな考え方をしていると思います。知識の習得から知識を用いての思考、技能の鍛錬、そして、新たな知識の習得。それを使ってのさらなる思考というふうに、スパイラルな考え方が、一番表されているというふうに思いました。</p> <p>それから、数学的な見方・考え方、先ほどありましたけどもこれは各社とも、それぞれ工夫されて設定されていました。その中で、大日本図書さんが、単元の中で、それから単元末において、このことを気づかせるということで、かなりそこに意識を働かせるような書きぶりをされていると思いました。</p> <p>あとどの社ともプログラミング課題が、設定されているのですが、一番力を入れているのは大日本図書さんと思いました。端末を使うプログラム学習と使わない学習という二つの教材を、丁寧に設定されているのですが、若干難しいかなという気がします。そういう点で簡潔でシンプルなのは、啓林館さんというふうに思いました。</p> <p>その二つの理由で、啓林館さんと、大日本図書さんということで、選びました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に藤原委員、お願いします。</p>
藤原教育委員	<p>私からは、結論を申し上げますと、東京書籍さんと啓林館さんかなというふうに考えました。</p> <p>各単元の組み立て方として、いろんなやり方があるようです。学校生活で起こる問題からアプローチするっていうのが一つと、あともう一つは、算数の問題から入るというやり方です。</p> <p>私もその生活に根ざしたという観点から考えると、生活で起こるものから、算数的に考えるというアプローチをするのが、いいのかなと思ったときもあったのですが、それよりは問題をやってみて、問題ができたという達成感を、簡単な問題で達成感を味わった上で、学習を深掘りしていくということが、算数の学習をす</p>

<p>重松教育長</p>	<p>るに当たっては有効なのではないのかなというふうに考えた次第です。 そうしたときに、その2社がこれから問題から入るっていう形になっていること。 もう一点その啓林館さんは、目当てというのをきちんと挙げた上で、さらに学びを生かそうという応用に重きを置いておられた点が好印象でした。以上です。</p> <p>ありがとうございます。 次に長岡委員、お願いします。</p>
<p>長岡教育委員</p>	<p>私は東京書籍さんと啓林館さんです。まず東京書籍さんの理由ですけれども、問題解決的な学習や課題が発見できる工夫として、それなら次はというような問いかけがあって、次の課題に自立的に学ぼうとする態度を身につける工夫がそこになされているなというふうに思いました。今取り組んでいる内容と、次に学ぶ内容の系統性とか接続を、子供たち自身が意識できるそういった工夫ができていないかと思った点です。 それから啓林館さんの方は、先ほどの藤原委員の意見ともしかしたら逆になるかもしれないのですが、身近な題材を取り上げて、問題意識が芽生えやすいような工夫で、数学的に考えることを楽しんでいこうというような展開がなされている点が、啓林館さんのいい点だというふうに思いました。以上です。</p>
<p>重松教育長</p>	<p>ありがとうございます。 次に側垣委員、お願いします。</p>
<p>側垣教育委員</p>	<p>はい。私はですね、東京書籍と啓林館を選びました。私は小学生のころから算数が一番苦手で、その算数の勉強が大嫌いだったんです。中学校でもそうですし、高校でもそうです。自分自身で考えたときに、どんな教科書だったら楽しく勉強できるかなという視点で、素直に見てみようかなと思いました。中身は今そういうふうな教科書の見方をしたのですが、それを考えると、その2社が、ちょっと面白く興味を持ってやってみようかなという意欲を、私に持たせてくれたっていうのが単純な理由なのです。ただ、細かいところ言えば、東京書籍さんはやはり、それならとか、同じように考えて、そして次はどうなるの、というふうな形に発展させるような問いかけとか、そういうものが多かったし、それから他の学科、他の教科とリンクされるような、その課題設定というか、そういうものが行われていたところがよかったかなのではないかなと。</p>

	<p>それとも一つ、啓林館の方は、やはり昨年、前回もこの啓林館が選定されたと思うのですが、実際に生活に即した課題から、説明していくというふうな問いかけがある。それから先ほど、山本委員もおっしゃいましたが、学びをつなげていってどんどん使えるようにして、高学年にのぼって行くというふうな組み立て方が面白い。それから、QRのコンテンツは非常に工夫された取り組みをされているなというふうに思いました。それが理由でこの2社を選ばせていただきました。</p> <p>重松教育長</p> <p>ありがとうございます。私は啓林館と学校図書です。</p> <p>啓林館につきましては、先ほど言われたように、学びのつながりを大切にして、知識の習得、知識を基に思考し、さらに新たな知識の習得、学んだことを使って思考という学びのつながりが明確になっていることと、学びに向かうその手順がよく分かるということが、特徴だと思っています。合わせて学びを支援するためのQRコンテンツに、非常に工夫が見られるという点で啓林館を選ばせてもらいました。</p> <p>学校図書につきましては、筋道を立てて考えるために、既習内容の再確認と、スモールステップの説明で、道筋を立てて示されています。さらにSDGsと関連させて、算数が実際の生活の中で、どのように活用されているのかという具体的な例が示されているということで、学校図書を選ばせていただきました。</p> <p>以上の結果から啓林館につきましては、5分の5、東書は5分の3、それから学校図書と大日本図書は5分の1ということですので、5分の5の啓林館を選ばせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>ご異議なしと認めます。</p> <p>では、次に、理科の報告をお願いいたします。</p> <p>河合選定委員会委員長、よろしく申し上げます。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>理科の報告をさせていただきます。</p> <p>各発行者の資質・能力の育成に向けた工夫やICTを活用した主体的・対話的で深い学びについての工夫などを協議いたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、問題解決学習の実現に向け、五つの活動場</p>

	<p>面で構成されており、「学びのライン」により単元の流れを可視化しております。活動ごとにデジタルコンテンツが用意され、デジタルワークシートや活動手順の動画、図鑑などにより子供の学びを支える工夫がありました。</p> <p>大日本図書は、問題解決の過程を三つの活動場面で構成しており、活動「伝えよう」では、言語活動を促す工夫がありました。QRコードがページ下部にまとめて配置されており、デジタルコンテンツの活用を促す工夫がありました。</p> <p>学校図書は、「みえる」「つながる」「ひろがる」とした三つの特色で構成されており、「ひろがる」では、コラム等により視野に広がりや多面的な思考を育成する工夫がありました。ICTを活用することにより学びの深まる活動にICTマークを配し、利用を促す工夫がありました。</p> <p>教育出版は、「なぜ?」、「問題解決の流れがわかる」「みんなが理科を好きになる」という三つのコンセプトで単元が構成されており、問題、実験、結論がチャートとして縦向きの流れを基本に思考や活動のプロセスが可視化されております。実験が難しい単元には実験動画が、実験する単元には、系統付く単元のデジタルコンテンツにより学習のつながりが分かるよう用意する工夫がありました。</p> <p>啓林館は、「見える」「楽しくなる」「未来をひらく」を目指し、見つける・しらべる・まとめるの3段階で単元が構成されており、問題解決に向けた学びのサイクルを「学びのライン」でつなぎ「見方・考え方マーカ―」を配して、思考を促していました。「ICTでわくわくをもっと!」では、CBT「WaCBT(ワクビット)」が用意されており、ICTの活用を促す場面にはICTマークを配置する工夫がしていました。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明にご質問、ご意見ありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、なければそれぞれに各委員からよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>藤原委員、よろしくお願ひします。</p>
藤原教育委員	1社ですよね。
重松教育長	1社です。

藤原教育委員	<p>私は、結論としては啓林館さんがふさわしいというふうに考えます。</p> <p>理科の教科書は、単元ごとに問題があつて、次に実験もしくは観察があつて、結果があつて考察があるという流れが一般的だと思うのです。その実験・観察の前に仮説を立てるという過程が、4年前の教科書のときは、仮説を立てている教科書会社さんが非常に限られていたんですが、今回は全社仮説という言い方はしていないのですけれども、予想・計画というステップが含まれております。なので、そもそも予想・計画・仮説の部分がないという教科書会社さんはいらっしゃいませんでした。ただ、その仮説の立て方なのですが、ここはあくまで予想なので、誘導し過ぎないことが、重要になってきます。答えを書いてはいけないわけです。子供にバックの問題を気づかせるところが重要なんですけども、この書き方が、啓林館が最も秀逸だったというように感じます。</p> <p>また震災、阪神淡路大震災に関する記述も充実している点も好印象でした。以上になります。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に長岡委員、お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>はい。私も啓林館さんです。藤原委員と同様に結果、観察・実験のところで、どの出版社さんも、予測というか予想・計画が入っていたので、その部分では一緒なのですけれども、啓林館さんは、その部分で話し合つて、推論していく、そういった促しがあつて、小学校の児童のところから科学的な思考とか、姿勢を育んでいく、育てて行くっていうことを重視した内容になっているなというふうに感じました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に側垣委員、お願いします。</p>
側垣教育委員	<p>はい、私も啓林館です。その理由はですね、今、長岡委員や藤原委員がおっしゃったように、問題をつかむ、それから予想して計画をして、実験・観察していくという流れが、しっかり構成されているなというふうに思いました。それから、それだけではなしに、子供たちが直接体験する、五感を働かせた観察、感じ取ること、そういうものを大切にできるような、実感させられるような、構成になっているなと思います。もう一つは、ここには書いているのでは他教科マークと言</p>

	<p>って、他教科との関連、理科だけではなく、関連して広がりを持てるような考え方ができるような、そういう工夫をされていますし、もう一つはやはり、先ほど藤原委員もおっしゃいました兵庫県関連の阪神淡路大震災であったり、記事記載がたくさんされているなど思いましたので、西宮の子供たちが学ぶには、この啓林館がいいかなと思いました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 次に山本委員、お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論からいうと啓林館です。皆さんの意見と共通すると思うのですが、学び方ということについては各社とも書かれています。その中で啓林館さんが一番流れが分かりやすい、しっかりしているというふうに思いました。そのことに加えて、ここでも理科の見方考え方ということが大事になってくると思うのですが、これをしっかり書いているのは東京書籍さんと、啓林館さんと思いました。特に啓林館さんは巻末にも見方、考え方のことが書かれていて、わかりやすく整理されていて、いいなというふうに思いました。最後に啓林館さんの方ですけども、理科というのは「なぜ」ということ、不思議や驚きが追求のスタートになると思えます。啓林館さんは、巻頭に3年生は見開きで「あ」だけです。4年生は「お」なんです。5年生は「え」なんです。6年生も「え」です。この辺が非常にうまく抑えている。たった一言で理科の楽しさとか、不思議さというものははっきり出している。理科の押さえどころが非常にわかりやすく作られた教科書だなと思えました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 私もそれぞれ委員さんが言われたように、学びの手順というのがはっきりしているのかなと思います。各教材が問題を掘み予想し、調べるものに対する計画を立てて、どうするかということ、観察・実験・資料を調べ、それから考察で、まとめという思考の流れをはっきりしているということ。それから兵庫県に関わる内容が示されており、特に防災に関する内容が体系的に示されているという特徴があるので、そういう意味では、啓林館がいいかなと思います。 私からは以上です。全員が啓林館ですので、啓林館で決定してよろしいでしょうか。</p>

重松教育長	<p>(異議なし)</p> <p>では、よろしくお願いします。</p> <p>次に、生活ここは6社ですので、2社を選んでいただくこととなります。</p> <p>河合選定委員会委員長、よろしくお願いします。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>生活の報告をさせていただきます。</p> <p>調査研究の中では、幼児期の育ちとの学びの連続性について意識している工夫やICTを活用した深い学びへ導く工夫などを中心に協議いたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、スタートカリキュラムを生活科の学習活動中心に編成した、付録「がっこう せいかつ すたあと」がありました。資質・能力の育成が可視化できるよう、本文と評価規準マークで紙面を構造化するとともに、「気付きの質の高まり」では、学びのプロセスや環境構成の具体例を示す工夫がありました。体験を補う具体的な様々なデジタルコンテンツが用意されていました。</p> <p>大日本図書は、入学式から最初の3日間を表したスタートカリキュラム対応ページを設け、「やってみよう せいかつか」や上下巻にページ「学び方名人」により生活科の学び方を示す工夫がありました。ICTの活用が効果的な活動場面を示すようタブレットが挿絵に使われていたり、「Webがくしゅうどうぐぼこ」により、困り感をサポートできるようにしたりして工夫されていました。</p> <p>学校図書は、「はじまるよ しょうがっこう」では、小学校の生活への円滑な接続として巻頭に設けられており、單元ごとに主となるキャラクターが設定され、自分の思いや願いをもとに自己決定ができる場面を設ける工夫がありました。</p> <p>発達段階に合わせICT機器の活用方法が示されており、情報モラルに触れていました。また、「ものしり図かん」の中にはデジタルコンテンツが用意されていました。</p> <p>教育出版は、巻頭の「わくわくどきどき はじめのいっぽ」では、幼児期の終わりまでに育てほしい姿10の姿が例示され、2年間を通じて、二人の主人公のセリフに生活科で育まれていく姿が表れるよう工夫がありました。上下巻ともに、「コンピューターをつかうとき」のページを設け、ICT機器利用のヒントやマナーが掲載されるとともに、QRコードには、見出しがあり位置も決められているため、分かりやすくしてありました。</p> <p>光村図書は、「いちねんせい はじまるよ」では、挿絵をもとに指差しながら言</p>

重松教育長	<p>語化を促しており、「ふりかえろう」では、情意面と「じぶんでできた、たとえた」など資質・能力を意識した二つの観点での振り返りができるよう工夫がありました。「あんぜん」「けんこう」「どうぐ」「ちかづかない」の4観点に分けてQRコードが設けられていました。</p> <p>啓林館は、すたあとぶっく「がっこう だいすき いちねんせい」では、生活科を入口として教科学習への移行する活動例が具体的に示されており、「学びのキーワード」では、比べるや見通すなどの考えるための学習活動が例示され、気付きの質が高まるよう工夫がありました。デジタルコンテンツとして、デジタルたんけんブックと学びウェブを設けており、学びの高まりをサポートする工夫がありました。</p> <p>以上でございます。</p>
長岡教育委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の河合選定委員会委員長の説明につきまして、何か質問はございますか。よろしいですか。</p> <p>それでは、今回6社ですので2社をお願いしたいと思います。</p> <p>長岡委員からお願いします。</p>
重松教育長	<p>私は東京書籍さんと学校図書さんです。まず、東京書籍さんですが、生活という科目を見つれたりとか、比べたりとか、例えば試すとか、見通すとかいろいろな学習活動とか表現活動をすると思うのですけれども、そういった学習の流れが一番うまくできているかなというふうに思った点です。</p> <p>それから学校図書さんの方は、キャラクターを多用して、イラストなどそういった吹き出しで分かりやすく説明表現があって、児童の、子供たちの好奇心を高めるような工夫がなされていると思いました。以上です。</p>
側垣教育委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に側垣委員、お願いします。</p>
	<p>私はですね、東京書籍と啓林館を選びました。東京書籍の方は、全体的に教科書自体を見てバランスのいい配置されているなという、小学校に入学して初めて出会う生活科に、子供たちが興味を持って取り組むような工夫がされているなという感じました。それともう一つは、やはり幼稚園・保育園からのつながり</p>

	<p>を意識した取り組みがされているなと思いました。</p> <p>啓林館の方は、子供たちが興味を持てるような、例えば一つの単元をわくわくタイムとか、いきいきタイムとか、グングンタイムというふうに三つの活動に分けて、分類して掲載しているのです。子供たちが自分でやってみたくなるような仕掛けをしています。工夫されているように思いますし、東京書籍の方でも言いましたけれども、単元の初めに、保育園や幼稚園ではどうだったかみたいな問いかけで、つながりを意識した構成になっているなというふうに思います。それともう一つは、兵庫県とのつながり、コンテンツの中に、兵庫県に関連するものが他社と比べて比較的多く掲載されていたなという感じがしましたので、その2社を選びました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>山本委員お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論から言いますと東京書籍と啓林館です。生活科は直接体験を重視する教科ですので、コンテンツの量とかはそんなに問題ではなくて、むしろ質が問題なのだろうと思います。ある意味ではもう少なくとも構わないというふうに考えるのですが、とは言ってもですね、生活科の教科書の写真とかイラストというのは、すごく大切だと思います。それで、イラストという観点で見たときに、季節の変化などを定点観察する、例えば校庭とか公園とか商店街、そういうところのイラストというのは、東京書籍さんが一番丁寧に書かれていると思います。そのタッチも、一番落ち着いていると思いました。それから、図鑑のところでも、実寸大がわかる1センチの罫線が丁寧に引かれています。小さなことですが、非常に配慮されていると思いました。</p> <p>それからあと一つ、ほかの教科書とかなり違うところがあると思います。生活科は、3、4年生の理科とか社会につながる教科です。社会への継続で考えてみれば、地図的な見方というのは、やはり少しでもそこに入れておくということが必要だと思うのです。東京書籍さんの方は、鳥瞰図的な見方というのが、かなり意識して入っています。全く入っていない教科書もあるのですが、それは非常に意識されて、三つも四つも入っているという、そこは大きいというふうに思いました。</p> <p>それから、啓林館さんというのは、これは、実は光村さんかどうしようか迷いました。光村さんは、教科書でありながら、1冊の本として触れてみたくなる、遊</p>

	<p>びの中で何か学ぶという、なんか使ってみたいなっていうことを、感じさせる教科書でした。啓林館さんにした最大の理由は、生活科っていうのは、命のつながりということ大切にしないといけない教科だと思います。朝顔なんかの種の扱いをどうしているんだろうと見たときに、ほかの教科書も啓林館さんも全部見開きで種を取ろうとかはあるのですが、啓林館さんはさらに図鑑として、種の不思議という形で一粒の種からずっとそれが成長して行って、花の後に種がついて枯れるという一連のページを、種の不思議という図鑑ページとして、見開きで設定しているのです。そういう命のつながりということ、一番子供と考えやすいページがあるということで、啓林館にしました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 藤原委員お願いします。</p>
藤原教育委員	<p>私は、東京書籍さんと大日本図書さんがふさわしいように考えました。 生活科を学ぶのは、小学校に入ったばかりの子たちなのですが、まだ自らを客観視できない年代であるというふうに考えます。そうしたときに、生活科の教科書で子供の言わばスナップ写真的なものがたくさん出てくるものっていうのは、私達大人が見ると子供が楽しそうだなというふうに感じるわけなんですけれども、きっとそのまだ小学校1年、2年の段階の子が見ても、そこで自分ごととして捉え、果たして捉えることができるのかなという疑問があります。それよりはむしろ、観察対象の方にピントがあっている教科書の方が、ふさわしいのではないかとこのように考えました。そうしたときに、東京書籍さんは観察対象というものが、意識されていること、それと大日本図書さんは、その視点が、いろんな視点から見たものが書かれていて、多様であるというところが、ふさわしいというふうに考えました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。私は東書と啓林館です。 東書の方は、季節の流れに沿った単元構成になっていること。それから生活と密着したスムーズな学習展開になっています。また、具体的な活動のイメージが持てるように工夫されており、学習のまとめなどで、共生的な学びの場作りができるように構成されているという特徴があるので、これを選ばせてもらいました。 もう一つ啓林館の方は、教科書全体を通して導入はわくわく、活動は生き生き、そして振り返りはどんだん、の3段階構成になっており、児童自身が学習の流れ</p>

	<p>を見通すことができるようになってきているということ。また、季節の流れに沿った単元構成になっており、生活と密着したスムーズな学習展開になっている。そのことで、選ばせていただきました</p> <p>今回は、東書が全員、啓林館が5分の3、学校図書が5分の1で、大日本図書が5分の1ということなので、東書で決めさせていただきます。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>はい。では、東書という形でよろしくをお願いします。</p> <p>では次に、音楽に移りたいと思います。</p> <p>これにつきまして、河合選定委員会委員長、お願いします。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>音楽の報告をさせていただきます。</p> <p>両発行者において、他教科との連携や言語活動を充実するための工夫について話題に挙がり、調査しております。</p> <p>各発行者の特徴ですが、教育出版は、「学び合う音楽」のコーナーを配置するとともに、「みんなで」「パートで」「となりの人と」と示していたり、アドリブを楽しんで見たりするなど、人との関わりを促す工夫がありました。また、「Take Me Home , Country Roads」を英語で歌ったり、「越天楽今様」に現代訳が付けられていたり、他教科での学びとつなげる工夫がありました。</p> <p>教育芸術社は、変声期の歌い方やボイスアンサンブルなど、人との関わりの中からアレンジするなどの工夫がありました。また、教科書には、「Edelweiss」を英語で歌ったり、「越天楽今様」に作歌の慈鎮和尚にまつわるエピソードが取り上げられており、他教科と連携している工夫がありました。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明について何かご質問ございませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>各委員の方からお願いします。</p> <p>側垣委員お願いします。</p>

側垣教育委員	<p>私はですね教出を選ばせていただきました。まず、教科書自体がすっきりしているということと、それからいろんなコンテンツが拾えるような動画がとれるようなコンテンツがたくさんあるということとか、それから子供たちがどうやったかなというのを自分自身で調べられるような工夫もされていたように思います。そういう意味で、教出の方を選びました。教育出版ですね。</p>
重松教育長	<p>次に、山本委員お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論は教育出版です。どう考えたかと言いますと、今、アート思考ということがすごく言われています。これは別に、音楽に限らずですね、算数でも理科でも何でもそうなのですが、それはどういうことかという考えるよりも、感じること、正解を見つけることから、自分の考えをつくるという、そういう既存の枠にとらわれない思考ということです。新しい価値を創造しようということで今すごく、大切にされています。その観点からでは、どちらの教科書なのかというふうに考えたときに、感じるとか、味わうとか、イメージという言葉が教育出版には多いし、もっと遊ぼうというふうな言葉もある。そういうアート思考の観点ということでいくと、教育出版の教科書ということで選びました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 藤原委員お願いします。</p>
藤原教育委員	<p>はい。私も結論を申し上げますと教育出版ということになります。 いずれもですね、音楽というと鑑賞と、あとは再現芸術というところに重きを置かれるのが従来の形であったと思うのですが、単なる再現だけではなくて、自ら作っていくということ。それは先ほど山本委員がおっしゃった自らの内にある表現したいものを、音楽を用いて表現するということが、最近注目されています。そうした観点から考えますと、いずれも例えばアドリブをやるであるとか、旋律を作るであるとか、再現芸術にとどまらない視点っていうのが、充実していたように思います。ただ、教育出版の方が、より周りや仲間と一緒に楽しむという観点で充実していたこと。あとここ数年急速に広まったストリートピアノについての指摘があったり、その中で神戸市北区が挙げられていましたね、西宮の子供たちがふらっと行きやすいところだということもあります。</p>

	<p>それとですね、君が代に関する書き方で、教育出版は世界の人々も、自分の国や地域や平和や発展を願い、誇りを持っている。互いに気持ちを尊重しましょう。ということも小学校1年生から書かれています。一貫して書かれています。</p> <p>一方で、教育芸術社は、私達だけではなく、世界中の他の国の人たちも自分たちの国歌に誇りを持っていると、他の国の国歌も尊重しましょうということが、5年生以上で書かれています。自分の国の国歌に誇りを持つところの2社さんに異論もないのですけれども、教育芸術社の書き方は、私達が国歌、アンセムですね、アンセムに誇りを持っているということが、何か前提となって書かれています。それは、国歌に誇りを持つということには、先ほど申し上げたように何の異論もないのですけど、国に対する愛おしさというのが、寛容されて初めてその一つのあらわれとしての国歌への誇りっていうのが生まれるわけです。</p> <p>ですので、入り方としては国歌ありきではなくて、国歌というのはアンセムの国歌ありきではなくて、自分の国や地域を愛すること、そこから入る方が教育のあり方としては正しいのかなというふうに考えました。その点においても教育出版の方が、優位に立つというふうに考えました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>長岡委員お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>私も教育出版さんです。作曲家についてのコラムとか、関連する写真を多用して、音楽を身近に感じられるようにしているという点は、もう両出版社さんともしていらっしゃるんで、ここはもう甲乙つけがたかったのですけれども、音楽を演奏したりするとき、上手にとか、うまくっていうことではなくて、自由に表現するとか、そういったところが教育出版さんには、より多く見られたのかな。即興性だとか、そういうところによく見られているような気がします。そういった点で、こちらを推薦したいと思います。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。では、私からですが、私だけが教芸になっています。なぜかという、基本的には教育出版かと思いますが、学習の目標や具体的な活動の例、ヒント、資料などが非常に豊富にあり、音楽的な見方・考え方を働かせながら、学習は進められるのではないかと思います。ただやはり使い方の問題があるので、材料としては、教芸でもいいのではないかと思います。教芸を推薦させていただきます。</p>

	<p>ほかにはございませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは教育出版が5分の4ですので、教育出版でよろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>はい、では教育出版ということで、よろしくお願いします。</p> <p>次に、図画工作についてお願いしたいと思います。</p> <p>選定委員会委員長、お願いします。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>図画工作の報告をさせていただきます。</p> <p>他教科との連携の工夫やICTを活用した主体的・対話的で深い学びについての工夫などを協議いたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、開隆堂出版は、全学年を通して、各ページ左下にQRコードが掲載されており、鑑賞シートやふりかえりシートなどICTの活用による学習支援やタブレット端末を用具の一つとして捉え、プログラミングやアニメーション制作单元などがあり工夫されていました。また、右下のページに「あわせて学ぼう」のインデックスに教科と関連付けられる活動が例示されていました。</p> <p>日本文教出版は、教科書に掲載されていない作品がQRコンテンツ「オンライン美術館」などに用意されており、プログラミングや「形に命をふきこんで」では、ICTを活用し、Webアプリで作品づくりを行えるよう工夫がありました。また、右下に「つながる学び」としてインデックスとして関連付いた教科名が掲載されていました。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明につきまして、何かご質問がありましたら。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、山本委員からお願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論から言いますと、日本文教出版です。デジタルコンテンツは、どちらも充実していますと説明があったと思うのですが、どちらもプログラム作品を使った作品等も登場させています。ですから先程言ったアート思考という視点で、これも</p>

重松教育長	<p>考えました。そうすると、載せられている作品が、どちらがそういうアート思考的なダイナミックな作品が載っているのかと考えたときに、日本文教さんだというふうに思いました。</p> <p>ありがとうございます。 藤原委員お願いします。</p>
藤原教育委員	<p>はい。これ相当迷ったのですが、私も日本文教出版かなというふうに考えました。図工から美術に代わるときに、中学に上がるときに最も人気をなくす落差が一番大きい科目というのが図工、美術っていうふうなことを聞いたことがあります。その理由は、やはりうまくやらずにちゃいけないというところに、視点が当たり過ぎることがあるということです。そう考えると、自分で作るっていうところにアプローチし過ぎると、中学生以降になって嫌いになっちゃったら元も子もないというところなんです。そうしたときに、その人の表現から、それが名画であろうが、友達の作品だろうが、その表現から何かを感じ取るであるとか、あるいは自分の中にある何かを表現するという力を、鍛えてこそその図工教育なのかなというふうに考えました。そうしたときに、作品を見た上での話し合いを促すであるとか、何を感じ取るんだらうというふうなところから、アプローチしているのが日本文教出版ということになります。ただ、なぜ迷ったかっていうと、開隆堂さんの方は作品だけではなくて、我々の生活の中に散りばめられている、例えば街中で見かけるものであるとか、そういったものに対してデザインとして機能していると、全て何らかの意味があって、出されているものだということ、実感してほしいという視点がありました。これも非常に大事な視点だと思ったのですけれども、思ったので、いろいろ迷ったのですけれども、留意すべきは何かというと、主体的・対話的・深い学びという観点から考えると、前者の方かなと考え、日本文教出版というふうに考えました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 長岡委員お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>私も日本文教さんです。前にご発言された委員とかぶるので、それ以外のところで言うと、本当に甲乙つけがたかったのですが、材料とか道具の扱い方の説明が分かりやすい。小学校以降ももしかしたら見返して、使えるような内容もある</p>

重松教育長	<p>と思われるので、そういった点からも、こちらかなと思いました。以上です。</p>
側垣教育委員	<p>ありがとうございます。 側垣委員、お願いします。</p> <p>はい。図工の教科書なので、手にとってページをパラパラとめくったときに、「あっ」というふうな気持ちを持たせてくれたのが、この文教出版の方だったというふうに思います。子供たちが興味を持つのが一番大切ですし、すっきり見た感じ、とてもすっきりしているのと、字体は読みやすい。もちろん中身は、甲乙つけがたいのですが、イメージとしてそういうふうなイメージを持ちましたし、子供たちが見て分かりやすいなというふうな工夫がされている。そういうところが、この文教出版の図工の教科書を選んだ理由です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。私の方からですが、私も日文です。なぜかというところと多くの題材で、左ページに手順、右のページに作例が掲載されており、見通しを持った活動ができるように工夫されていること。それから、様々な用具、道具が使える、例えば絵の具、クレヨン、コンテ、カラーペンといったものに触れる機会が様々なことが、表現の自由につながっていくということ。先ほど地域の自分の生活を題材というのもありますけども、そういうことも大切ではないかなということで、日文を選ばせていただきました。</p> <p>このことにつきましては、全員が日文ですので、日文で決定して、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>では、それで決定させていただきます。</p> <p>次に、家庭科についてです。</p> <p>河合選定委員会委員長、よろしくお願いします。</p>
義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長	<p>家庭科の報告をさせていただきます。</p> <p>家庭科の教科書では、生活の自立に向けた他教科や中学校技術・家庭へのつながり、問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫が話題となりました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、学習したことを生かす具体例として、「夏休</p>

	<p>みにチャレンジ」や「生活を変えるチャンス！」として、長期休業等の時期を生かした実践ができるよう工夫がありました。中学校技術・家庭との関連には、関連マークをつけて示されたり、SDGsと重ねて、持続可能な社会をつくることと消費者教育を結びつけていたりしたことも特徴的な部分です。</p> <p>開隆堂出版は、投げかけによる問いで単元が構成されており、単元ごとに「生かす・深める」として、学習内容を日常生活に問題を見つけ、解決するする手立てが示されています。「2年間の学習を中学校につなげよう」では、小学校家庭科と中学校技術・家庭とのつながりが掲載されていたり、SDGsと重ねて、自立と共生で持続可能な生活を目指そうとしていたりする工夫がありました。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明につきまして、ご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、藤原委員お願いします。</p>
藤原教育委員	<p>はい。私は、東京書籍の方がふさわしいかなというふうに考えました。</p> <p>家庭科っていうのは、学校でやったことが日々の生活に役立つという、こう言っちゃなんですけど、数少ない科目なのかなというふうに思います。それが、子供ができることと、大人がやることと、内容が一緒であると、あとの教科というのはどうしても大人と子供の差というのが、歴然とできるわけですけれども、やり方を覚えると料理にしろ、洗濯にしろ、掃除にしろ、お裁縫にしろ、子供であっても、大人と同内容のことができるというのが家庭科の特徴であると思います。</p> <p>そうしたときに、学校でやったことを、もう一度実践する気にさせる内容になっているかということが、重要なかなというふうに考えました。そうしたときに、先ほど長期休みにやってみようというふうな、ご指摘があったように、東京書籍の方がそういった視点が充実しているというふうに考えました。</p> <p>またプロに聞くっていうコラムがありまして、これが一つのキャリア教育的な視点から行くということなのかなというふうに考えました。ただ、どちらも非常に細かくてかなりごちゃごちゃしている印象だなというふうに思います。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>長岡委員お願いします。</p>

長岡教育委員	<p>私も東京書籍さんです。この写真を見ながら、実際に野菜の皮をむいてみるとか、切ってみるとかっていうようなところで考えたときに、東京書籍さんの方が見やすいという点です。さっきの図画工作とも重なりますけれども、それから道具の名称、使い方などの説明も、どちらもきちんとされているのですが、分かりやすい、見やすかったというのが一番です。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 側垣委員お願いします。</p>
側垣教育委員	<p>はい。私も両方迷いましたが、東京書籍を選びました。 一つは、子供たち同士が、いろんな一つ二つのステップでお互いが話し合う機会を持てるような工夫がされているということ。それから、自分自身で課題を見つけ、それを解決していこうという工夫がされている。それからそのあとにチェック項目があって、具体的に考えていけるような、そういう工夫がされているなというふうに思いました。 それから、さっき藤原委員もおっしゃいましたが、プロに聞くというコラムがありまして、そこに本当に活躍されている方々が、いい体験ができるというふうなこと。そういう部分と夏休みチャレンジっていうところで、実際に学んだことを自分自身の生活の中で生かしてみる、そういう部分が、東書さんの方が設けられている利点がある。長岡委員がおっしゃいましたが、見た目がすっきりしているというか、分かりやすい、見やすいというところも大きいかなと思いました。以上です。</p>
重松教育長	<p>山本委員お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論は東京書籍です。これは一番迷ったものです。構成がとてもよく似ていると思います。家庭科の見方・考え方については、それぞれが家庭科のマークとか、四つ葉のクローバーという形で工夫して、意識化させているし、先ほどのごちゃごちゃしているという感想もありましたが、やはりそれはあって、どちらの方が分かりやすい展開かということを考えました。 東京書籍さんの方はステップ1に対して、次に目当てが一对一の対応でずっと展開してきます。ところが開隆堂さん方は、そのステップ1の段階で、あとの目当</p>

重松教育長	<p>でも全部、そこに登場してきます。そうするとステップが進む段階で、この学習の目当ては何だったのかというふうに、戻って確認しないといけないということもできます。それでスムーズに、学習が展開しやすいのは、東京書籍さんというふうに思いました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。私も皆さんの意見と一緒に、東書です。全体的に系統だって学習できるようになっているということと、その学習する姿勢が明確にするとともに、学習の流れがきちんと示されていて、見通しを持って学習できるようになっていると思っています。確かに甲乙つけがたいところがあるのですが、全体の流れからして東書の方がスムーズに流れていっているのかなと感じます。私からは以上です。</p> <p>それでは、全員が東書なので、東書でよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	<p>よろしくをお願いします。</p> <p>次に、保健についてお願いします。</p> <p>河合選定委員会委員長、よろしくお願いします。</p>
義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長	<p>保健の報告をさせていただきます。</p> <p>自分自身の生活へと生かすことができるよう、教科書で学んだことをもとに、生活を振り返り、これからの生活への実践につなげていくことが大切と考え、自分の成長や健康に関心を向けさせるための効果的な手立てについて調査をいたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、健康についての課題を「自分ごと」として捉えられるよう、四つのステップで各項が構成されており、教科書のみで学習できるよう工夫がありました。また、今日的な健康情報を各項末に「資料」として、性の多様性にふれた「性と自分らしさ」等が掲載してありました。</p> <p>大日本図書は、言語活動を通して課題を解決していけるよう、四つのステップで1時間の学習が構成されていました。また、性の多様性として発展資料「さまざまな性」にはLGBTが紹介されていました。</p> <p>大修館は、課題解決に向けた三つの活動と、3ステップのシンプルな学習過程で構成されていました。資料「もっと学びを広げよう！深めよう！」では、みんな</p>

	<p>違ってみんないいとして、性についての感じ方等が紹介されるとともに、相談窓口が掲載されていました。</p> <p>文教社は、学習内容の「Mission」と学習活動「Stage」で考えを深め、実践へつなげていけるよう、学習過程が構成されていました。発展資料「もっと考えよう課」では、その人らしさとして「ジェンダー」等が紹介されていました。</p> <p>光文書院は、協働学習を設定した五つの学習過程で単元が構成されていました。「さらに広げよう深めよう」では、「『性』についてのなやみ」として、身近な大人への相談やなやみ相談窓口が紹介されていました。</p> <p>学研は、1時間の授業の中で、課題をつかみ、資料を読み取り、よりよい解決方法を考えることができる構成となっています。発展「もっと知りたい・調べたい」の「性についての心の多様性」として、性の違いの不安や生きづらさを、養護の先生などへの相談や相談窓口例が紹介されていました。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明につきましてご意見、ご質問ありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、長岡委員お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>私は、東京書籍さんと学研さんです。</p> <p>東京書籍さんもほかもそうなのですが、個人差とか共生への配慮がきちんとなされていて、自分らしい性のあり方とか、多様な生き方についての書きぶりが分かりやすいかなというふうに思いました。それから学研さんの方は、心身の発育、発達とか健康について、グラフとか写真とかっていうのを豊富に掲載されていて、その点がとてもいいと思いました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>側垣委員お願いします。</p>
側垣教育委員	<p>私も東京書籍と学研を選ばさせていただきました。</p> <p>東京書籍の方は、説明にもありましたけれど自分自身の健康の課題を自分ごととして捉えて、そして、その一人ひとりが、自分自身がどういうふうな健康課題を</p>

	<p>持っているのかという、考えるような工夫。それと一人ひとり違うんだということに気づいていく。性別も含めて様々な課題を、自分ごととして捉えて気づく、見つける、調べる、解決する、深め伝える、まとめる、生かすというふうな形で、お互いが協力して、学習課題としてできるような工夫がされているなと思いました。</p> <p>それから、学研の方は、やはり教科書が見やすい。紙面全体がすっきりしているなということと、分かりやすいグラフです。先ほど長岡委員がおっしゃいましたが、そういうふうな工夫がされている。そういうふうなところで、この二つがいいかなと思いました。それで選びました。</p>
重松教育長	ありがとうございます。
	山本委員お願いします。
山本教育委員	<p>私は、東京書籍と学研です。</p> <p>今日的課題の性の多様性とか先ほどからずっと出ているコンピュータ・スマホの使用と健康問題とか、新型コロナの感染症等の課題は、ほとんどの教科書が取り上げています。特に東京書籍さん、学研さん、光文さんが丁寧というふうに思いました。それから、資料の充実度ということ言えば、東京書籍さん、学研さん、大修館さんと思っています。学研さん、東京書籍さんにしたのは、要するに学習の進め方、それはほとんどの教科書が書いているのですが、一番使いやすいということ。学研さんの方は、見開きで使うようになっていて、左のページに写真があって、これで課題を考えて、課題を見つけて、右ページに自分の考えを書くという展開が繋がっていて、非常に使いやすい教科書になっています。シンプルで分かりやすく使いやすい。東京書籍さんもその形式に近い。東京書籍さんのは、右に写真があってめくって、書くようになっています。使いやすいものを作るということで、考えているということで、その二つにしました。以上です。</p>
重松教育長	ありがとうございます。
	藤原委員お願いします。
藤原教育委員	<p>はい。私は、学研さんと大日本図書かなというふうに考えました。</p> <p>皆さんそれぞれ性のあり方などなどのコンテンツを挙げられていますが、私は専門分野で指摘させていただきますと、20歳未満はタバコを吸ってはいけないと</p>

	<p>というのは当然書いてあって、若年層で吸うと将来の健康リスクが高くなるというところも皆さん書いていらっしゃる。さらに、例えば先輩などから勧められたときの断り方はどうしようっていう話も、各社さんとも書いておられます。ただですね、大人になっても吸ってはいけないという視点で、書かれていたところは、学研と大修館と大日本図書ということになります。</p> <p>一番踏み込んで書いてくださっていたのは、大修館です。20歳になっても吸わない方がよいという書き方をされてきました。学研は大人になっても気をつけるべきだということを書いていますし、大日本図書は、友達や大人に勧めないようにしようという視点で書かれていました。喫煙することによって、就職や結婚が不利になるっていうのは、今はもう既にそういう状況だし、今の子供たちが大人になる時代はさらにそうなるわけですから、西宮の子供たちはそういうハンディを背負うべきではないということまで考えると、その点をきちんと指導できる手段だというふうに考えました。</p> <p>一方で、少し視点がズれるのですが、災害の項目を見たときに阪神・淡路大震災記述があるかどうかという視点を加味したときに、冒頭それが学研と大日本図書、この2社ということになりました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。私の方からですが、私は東書と学研です。</p> <p>東書の方は、健康についての課題を自分のこととして捉え、主体的な学習ができるよう、四つのステップで構成されており、各ステップには記入スペースが先ほどあったように、右、左に用意されており、考えたり判断したりすることが表現できるようになっており、またQRコンテンツも充実しているのではないかと思います。</p> <p>それから学研につきましては、個人差や多様性に触れられており、自分自身を見つめたり、それぞれの違いを大切に思うことができるような構成になっています。日常生活において様々な気づきを促すことができるような資料が充実しているということで、学研を選ばせていただきました。</p> <p>これを見ますと学研は5分の5、東書が5分の4、それから大日本が5分の1ということで、学研に決めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
重松教育長	では学研で決めさせていただきます。

<p>義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長</p>	<p>次に、外国語につきまして、河合選定委員会委員長、よろしくお願いします。</p> <p>外国語（英語）の報告をさせていただきます。</p> <p>主体的・対話的な学習に向けた取り組みとして、言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成について調査いたしました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、四つの活動でUnitが構成されており、見開きごとに配した「Small Talk」で既習事項を、単元末「エンジョイコミュニケーション」では、例文や説明を掲載し、言語活動が充実するよう工夫がありました。また、年間を通して、会話のやりとりの充実を目指したあいづちが紹介されています。</p> <p>開隆堂出版は、Lessonの流れが縦向きのインデックスで分かるよう構成されており、「Let's try」や「Activity」では、具体的な活動が示され、キャラクターの吹き出しでは、よりよい活動となるよう工夫がありました。また、年間を通して「Activity 2」に、会話のやり取りのあいづちが紹介されています。</p> <p>三省堂は、Lessonが「HOP・STEP・JUMP」の3プロセスで構成されており、「JUMP」の活動により単元のGoalが分かりやすい工夫がありました。また、具体的な話題を取り上げた活動内容により活性化する工夫がありました。</p> <p>教育出版は、Lessonの流れが横向きのインデックスで分かるよう三つのActivityで構成されており、各単元の「Final Activity」では、カードづくりや動画づくりなどで言語活動を促す工夫がありました。</p> <p>光村図書は、Unitが「Hop・Step・Jump」の3プロセスで構成されており、「Jump」では、話す活動では英語で「Let's speak」と示されており、活動内容が見通せる工夫がありました。また、よりよい活動となるよう具体的なアドバイスを載せる工夫がありました。</p> <p>啓林館は、UnitがStepで構成されており、「Activity」では、積み重ねてきた活動を活かした言語活動が設ける工夫がありました。学期末の「Review」では、コミュニケーションのポイントを示すとともに、発表する活動を設定する工夫がありました。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>重松教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明につきまして、ご意見ご質問ありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p>

側垣教育委員	<p>それでは、各委員お願いします。</p> <p>側垣委員、最初をお願いします。</p> <p>はい。私はですね、まず一つ三省堂を選びました。そしてもう一つ、開隆堂と光村と迷ったのですが、最終的には光村を選びました。</p> <p>三省堂については、やはり三つの大きな活動、目標を設定して、そこにホップ、ステップ、ジャンプという形で進んでいくことができるということと、それからQRコードが項目ごとについているので、そこで試すことができるということ。発音の確認であったり、そういうことが全てできて、それはどこの教科書もしているのですが。それからもう一つは、レッスン6のところ、他教科と関連のあるところにまた広がりができるような部分が構成されているということと、兵庫県で紹介として、明石 Love なんか紹介されている部分もあり、親しみがあるのかなというふうに思いました。</p> <p>もう一つ、光村の方は、学年ごとにその学年の目標を設定されているということ。それから、各ページにQRコードが設けられて、音声面でサポートが受けられるということ。そういう部分が、選んだ理由です。それと紙面がすっきりして見やすいなという部分が特徴だというふうに思っています。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>山本委員お願いします。</p>
山本教育委員	<p>結論から言うと三省堂と開隆堂です。ユニット構成の話が出ましたけども、この考え方はすごく大切だと思います。たくさん教科書が、ユニットという形で書かれているのですが、意味合いが全然違うという気がしています。その中でユニットという使い方で一番分かりやすいのは三省堂さんだと思います。言語活動を三つに分けて1年間分、それを3ユニットにして、それをホップ・ステップ・ジャンプと学習を構成して、三つを重ねていく。スパイラルで学びを深めていくという考え方が、一番分かりやすい。ほかのユニットという言葉を使っているところは、どちらかというとなんかという考え方に近い。深めるというのではなく、何か重ねているという感じがあって、その辺りの考え方が違うという気がしました。</p> <p>それからあと一つは、外国語、英語ですね、4技能5領域ということがあるわけですけども、小学校ですから当然、聞くと話すが大変だと思います。そうすると</p>

重松教育長	<p>そのバランスが一番取れているのが、三省堂さんと開隆堂さんだったということでその二つにしました。以上です。</p>
藤原教育委員	<p>ありがとうございます。 藤原委員お願いします。</p> <p>はい。私は、三省堂と光村がふさわしいと考えます。 全体的に日本語で課題を設定して、英語で課題を話していくと、いうふうな構成になっているのですが、その問いをその英語に移ったときに、単なるクイズではなくて、英語でしっかり考えられるような構成になっているのか、どうかという視点で考えたときに、三省堂さんのホップ・ステップというふうな深め方という点が秀逸だなというふうに考えました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。 長岡委員お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>私は、三省堂さんと光村さんです。 ほかの出版社さんとも共通しているのですが、人権とか、他文化理解っていうのは、どの出版社さんも配慮がなされていたと思います。 三省堂さんについて、特にっていうふうにしたのは、この4技能5領域が統合的に、バランスよく配置されている。そしてホップ・ステップ・ジャンプのプロセスになっているので、子供たち自身もゴールが分かりやすいということと、視点が違うのかもしれないのですが、ご指導される先生方も指導しやすいのではないかなという、そんなふうに感じました。 それから光村さんの方も、学習の流れがとても分かりやすいということと、これまでの学習と今後の学習の見通しが、明らかに示されてということがよいと思いました。英語と日本語を比較している。あえて英語の勉強のときに日本語と比較して、共通点がすごいっていうようなのを、ここで勉強して身近さというか、あえて言っているということもユニークだなというふうに思いました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。最後に私の方からですが、私は、三省堂と開隆堂です。 三省堂の方は、目的や場面、状況に応じて考えながらコミュニケーションを図る</p>

<p>義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長</p>	<p>力を養う活動により、思考力・判断力・表現力が育成されるように工夫されているのではないかと思います。また、英語で言いたくなるような活動を取り入れ、スモールステップで積み重ねることで、英語が身につくように工夫されているという点が、三省堂のいいところだと思っています。</p> <p>開隆堂につきましては、音声から文字への学習をスモールステップでスムーズに行うことができるように工夫されていて、そして学習したことを、実生活、実社会に生かせるように配慮されている点が、開隆堂のいい点ではないかと思っています。私からは以上です。</p> <p>これからいきますと三省堂が5分の5、開隆堂が5分の2、光村が5分の3ということで、三省堂で決定させていただきます。</p> <p>よろしくをお願いします。</p> <p>最後になりますけども、特別の教科道徳につきまして、委員長をお願いします。</p> <p>特別の教科道徳の報告をさせていただきます。</p> <p>現代的な課題に触れながら、「いじめ」についての直接的教材と間接的教材を組み合わせたユニット教材で取り上げる教科書、直接的教材は極力少なくする方針の教科書などの特徴がありました。</p> <p>各発行者の特徴ですが、東京書籍は、情報モラルやSDGsに触れながら、「いじめ防止」を重点教材として、主要発問に二重丸(◎)をつけた二つの発問で教材が配列されております。巻末の「考えるためのツール」やテーマを色分けして示すことにより、考えを深める学習ができるよう配慮がされております。</p> <p>教育出版は、「いじめ問題」「情報モラル」を重要テーマとし、SDGsやLGBTQの教材も配列しています。各教材末には、「自己評価欄」、巻末の「学習をふりかえろう」などにより、自らの成長を振り返る工夫がありました。</p> <p>光村図書は、「いじめ問題」「情報モラル」「環境」「共生」をテーマとし、その学習の前に考えてほしいことは「よびかけ」に、学習後にはコラムを掲載しています。「学びの工具箱」や対話の積み重ねから考えを深めることができるよう、配慮がされています。</p> <p>日本文教出版は、「いじめの防止」を重要なテーマとし、「人との関わり」として学期に1回、SDGsや情報モラルなどを配列しています。別冊としての「道徳ノート」とコラム「心のベンチ」で、考えを深め成長を振り返る工夫がありました。</p> <p>光文書院は、「いじめを生まない心」「命をかがやかせる」「人間・人間関係」をテ</p>
---------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>ーマとし、特に重要な課題とした情報モラルやいじめ、持続可能な発展についての教材やLGBTQやレジリエンスなどのコラムを配列しています。思考ツールや視点が異なる発問により多面的・多角的に考えを深める工夫がありました。学研は、最重要テーマを「いのち」として、多面的・多角的な観点で問題提起された、いじめやSDGsなどの教材が配列されています。また、「心のパスポート」や「深めよう」により、思考を多面的・多角的に広げ、問題意識を育む工夫がありました。</p> <p>以上でございます。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明につきまして、ご意見、ご質問はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、特別の教科道徳につきまして、山本委員、よろしく申し上げます。</p>
山本教育委員	<p>はい。私は、学研と東京書籍です。</p> <p>議論する道徳が求められていることは、はっきりしている。そうすると、価値そのものについて子供が考えて、話し合うということが大事だと思います。そうすると初めから価値の方向に誘導されにくいものが、大切だというふうに考えました。その観点でいくと、例えば題目とかそういうところに、価値の内容に関する言葉を外している教科書の方がいいというふうに考えました。その観点から言えば、学研さんが一番というふうに、思いました。</p> <p>東京書籍さんや日本文教さんも、そんなに価値づけは出していないという感じがします。東京書籍さんと日本文教さん、どちらにするか迷いました。前回、私、中学校の採択に出ていたのですが、それと比べて日本文教さんはすごく変わったなと思いました。あのときはワークシートのコンテンツがたくさんありました。今回は道具箱というものを設定したりして、コンテンツも非常に多様なものを用意しています。すごい変わってきたという気がしています。ただ道徳ノートがついていて、これが要るのかなというのは、どうしても気になりました。考え方なのですが、私は要らないんじゃないかと思っていて、学研さんと東京書籍さん、その二つにしました。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>藤原委員申し上げます。</p>

藤原教育委員	<p>はい。私は、光村さんと東京書籍かなと考えました。</p> <p>道徳が、国語とは別に設けられたのは、教材を読んでその読解力を見るということも大事なのでしょうけれども、テーマを考えて読んで、子供で議論を深めるということなのかなと考えます。そうしたときに、問いの立て方が適切か、もう少し言うと直接的過ぎないか、補助線が多過ぎないか、というところ。あと子供に考える余地を残しているかというところ。あとその問いがそもそも国語の問題のような、読解力を問うような問いの立て方になっていないかという視点から見ました。つまり、人によって意見が変わり得るような問いの立て方になっているかどうかというふうに考えたときに、私は光村さんと東京書籍さんがいいのかなと考えました。あとは国語の読解問題みたいな問いの立て方のところがあるように感じます。あとは他人の考え方を尊重するような誘導があるかどうかというところでも、これは光村さんですね。そういう書き方をされていたのが好印象でした。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>長岡委員お願いします。</p>
長岡教育委員	<p>私は、光村さんと教育出版さんです。</p> <p>光村さんの方は、授業の1時間あるいは、1年の学習の流れをキャラクターの吹き出しで表現していて、少し誘導がそこにあるのかなという感じもしたのですが、それでも学習を通して、生活していくための基礎となるような道徳性をそこで養っていくことが、こういった流れで身に付いていくのかなというふうに感じたので、光村さんがいいのではないかとというふうに思いました。</p> <p>それから教育出版さんの方は、考えて議論するような授業の工夫がされているということと。それから他の教科学習との関連が図りやすい教材が取り上げられているなというふうなことです。あとは、これは好き嫌いがあるのかもしれませんが、イメージを豊かに広げるような挿絵が、適所に配されているようなところも印象的でした。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>側垣委員お願いします。</p>

側垣教育委員	<p>はい。私は、光村さんとそれから学研ですね、学研を選びました。</p> <p>光村さんの方は、やはり自分自身が学んでいけるような仕組みがされているなと思いますし、お互いに話し合うときに、アサーティブな関係性で対話ができるかなというふうな工夫が、問いかけとしてなされていると思います。それから取り上げるコンテンツですけれども、内容が一人一人が大切にされるっていうこととか、いじめについてずっと全学年で取り上げているということ、それから差別や多様性についても、記載をされていて、それを考える工夫がされているなということと、やはり子供の権利条約についても、他社でも触れているところがあるけれども、記載をされている。そういうところが私にとっては、重要なところなので、まず光村さんを選びました。</p> <p>それと学研の方は、体験的な学習っていうか、そういうふうな教材が、いたるところに用意されていた。それから教科書の内容についても挿し絵や写真やコンテンツが準備されているということがいい。それから多様性についても、例えばチヨモランマの清掃登山を挙げていて、なぜそこが取り上げられるかということについて説明されていて、見方、やり方っていうか、工夫されるようになった教科書かなと思いました。以上です。</p>
重松教育長	<p>ありがとうございます。私の方ですが、光村と学研です。</p> <p>光村の方は、教材の一番最後のところに学習の手引きが設けられていて、自分ならどうするだろう、どう考えるだろうという呼びかけの言葉が示されております。そのことを受けて自分として主体的な姿勢で、学習に取り組むような工夫がなされていること。また、一つの教材について、教材との対話、他者との対話、自分との対話を行えるよう、問いの順番が意識されており、考えを深めていけるような取り組みになっているのではないかとということで、光村とさせていただきます。</p> <p>学研につきましては、同じように各学年の巻末につながる私、広がる私、巻末につなげよう、広げよう、それから先ほど少し見た巻頭のところで、児童が自分自身の成長を振り返り、課題や目標を見つけることができるように工夫されています。そして未来を作っていくためには、自分で行動することができるような教材を設けていくこと。多くの人物教材が掲載されており、目指す方向性が、要するに理想系の人々が示されているというところが、いいのではないかと考えて学研を推薦させていただきました。</p> <p>以上のところから、教育出版が5分の1、それから東書が5分の2、学研が5分</p>

<p>重松教育長</p>	<p>の3、光村が5分の4ということになりますので、5分の4の光村を推薦したいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>では、光村を推薦させていただきます。</p> <p>以上で、この教科書につきましては、採択が決まったという形になります。</p> <p>次に特別支援学級の一般図書の採択について審議を始めます。</p> <p>選定委員の説明をお願いいたします。</p>
<p>義務教育諸学校 教科用図書選定 委員会委員長</p>	<p>特別支援学級の児童生徒の教科書については、検定教科書（下学年の教科書を含む）や、文部科学省による著作本、いわゆる星印本を採用することをまず検討し、これらを使用することが難しい場合には、検定教科書などに代わる教科の主たる教材として、絵本などの一般図書を採用してもよいこととなっています。</p> <p>ここからは、この一般図書に関する報告となります。</p> <p>「特別支援学級用一般図書の調査報告」につきましては、報告書の23から30ページに記載しています。</p> <p>本市では、平成23年度より、文部科学省及び兵庫県教育委員会が示す一般図書のリストをもとに、西宮市版のリストを作成し、教育委員会に採択していただいています。</p> <p>本年度の調査研究では、令和5年度一般図書契約予定一覧及び、県教育委員会作成の調査研究資料をもとにして協議いたしました。</p> <p>昨年度作成したリストから、令和5年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていない6冊を一覧から外すとともに、特別支援学級に在籍する個々の子供を想定し、教科、学年、障害種別における適正を判断したり、一般図書を使用してどのような学習が展開できるかを話し合ったりして、新たに6冊を追加し、合計188冊の図書を掲載しました。</p> <p>28ページをご覧ください。</p> <p>こちらに、昨年度のリストから削除した図書と追加した図書をまとめております。</p> <p>28ページの上側の表に削除する6冊を記載しております。</p> <p>削除にする理由については、令和5年度使用一般図書契約予定一覧に掲載がされていないこと。令和6年度使用図書として供給ができないことのためです。</p> <p>次に、その下の表に記載している、リストに追加する2冊の図書について、説明</p>

いたします。

表の一番左の番号で言うと、No. 152の「あいうえおうさま」は、各ページに一つのひらがなが書かれており、五十音を学びやすく構成していました。文字で表記されている以外にも、そのひらがなで始まる言葉のイラストが書かれており、言葉を広げていくことができます。韻を踏んでおり、音読の練習に適しているため、追加いたしました。

No. 51の「らくがきえほんあ・い・う・え・お」は、言葉遊びで文字を覚えることができ、余白が広く描きやすくワークとしても使えます。ユニークなイラストで子供の興味を引きやすいため、追加いたしました。

No. 145の「きいてうたって24曲どうよううたのえほん」は、童謡からアニメソング、英語の歌までバラエティに富んだ内容となっています。カラオケ機能がついており歌唱をするなど、意欲を持って取り組むことができます。また、選曲ボタンを自分で押して音楽を楽しむことができるため、追加いたしました。

No. 172の「子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん」は、社会生活をしていく上で大切な生活習慣や礼儀作法について学ぶことができます。イラストや写真をたくさん使用しており、基本の生活動作を分かりやすく習得できるうえ、「おうちのかたへ」というコメントがあり、家庭学習にも生かすことができるため、追加いたしました。

No. 9の「写真でわかるなぜなに1どうぶつ」は、カタカナにもルビが振られており、読みやすい本となっています。1枚の写真に動物のしぐさが分かりやすく掲載されているうえ、動物に関する豆知識が質問形式で分かりやすく丁寧に説明されているため、追加いたしました。

No. 16の「知育えほんマークのずかん」は、道路標識や案内標識、環境を守るマークなどがテーマ別に分かりやすく構成されています。また、絵や文字が大きくはっきりとしており、見やすい紙面となっております。マークを知ることで、安全マナーや思いやり、環境など社会への関心を高めることができるため、追加いたしました。

これまで既に西宮版のリストに掲載されていた一般図書の中にも、他の教科や他学年、他の障害種別でも使用可能なものがあるかどうかについても調査研究を進めました。今年度は特に変更はありませんでした。

各学校で特別支援学級の個々の児童生徒が使用する一般図書を定める際は、担任を中心として、管理職、保護者、特別支援教育課が連携を図り、検討を重ねて、西宮市版のリストの中から、個々の子供の状況にあった、最も適切な教科用図書

<p>重松教育長</p>	<p>を選ぶこととなります。</p> <p>「特別支援学級用一般図書の調査報告」については、以上でございます。</p> <p>ご審議をよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>特別支援学級用の一般図書について説明がありました。</p> <p>これにつきまして、質疑、討論したいと思いますけども、ご意見、ご質問ありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、選定委員会の報告の通り採択したいと思いますけども、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>重松教育長</p>	<p>異議なしと認めます。</p> <p>これで報告をいたしますものについて採択をいたします。</p> <p>最後にその他の教科用図書の採択について確認します。</p> <p>中学校、義務教育学校後期課程教科用図書については、基本的に同一の教科書を4年間採択しなければならないとされているため、前年度採用された教科用図書を採択しますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>重松教育長</p>	<p>異議なしと認めますので、前年度採択された教科用図書を採択いたします。</p> <p>以上で、議案第23号「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の件」の審議を終了いたします。</p> <p>以上で予定されていた議題は全て終わりました。</p> <p>ではこれをもちまして第1回教育委員会臨時会を閉会いたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>